力強い活動、好調な業績

クレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル S.A.2021 年度第 1 四半期の表示データ及び基礎的データ

危機前の前年同期対比で非常に好調な業績、力強い営業活動

	クレディ・アグリコル・グループ		クレディ・アグリコル S.A.	
	表示	基礎的	表示	基礎的
収益	**90 億 4,900 万ユーロ** 前年比+8.2%	**90 億 8,200 万ユーロ** 前年比+8.4%	**54 億 9,300 ユーロ** 前年比+5.6%	**55 億 800 万ユーロ** 前年比+7.2%
費用 （SRF を除く）	**-55 億 500 万ユーロ** 前年比-0.8%	**-55 億 100 万ユーロ** 前年比+0.4%	**-31 億 9,700 万ユーロ** 前年比-1.8%	**-31 億 9,300 万ユーロ** 前年比-0.0%
SRF	**-4 億 6,700 万ユーロ** 前年比+2.8%	**-6 億 5,200 万ユーロ** 前年比+43.4%	**-3 億 8,000 万ユーロ** 前年比+5.6%	**-5 億 1,000 万ユーロ** 前年比+41.7%
営業総利益	**30 億 7,800 万ユーロ** 前年比+30.2%	**29 億 3,000 万ユーロ** 前年比+19.8%	**19 億 1,600 万ユーロ** 前年比+20.8%	**18 億 500 万ユーロ** 前年比+14.0%
リスク関連費用	**5 億 3,700 万ユーロ** 前年比-42.3%	**5 億 3,700 万ユーロ** 前年比-42.3%	**-3 億 8,400 万ユーロ** 前年比-38.2%	**-3 億 8,400 万ユーロ** 前年比+43.1%
純利益グループ帰属分	**17 億 5,400 万ユーロ** 前年比+93.2%	**15 億 9,900 万ユーロ** 前年比+63.0%	**10 億 4,500 万ユーロ** 前年比+63.9%	**9 億 3,200 万ユーロ** 前年比+43.1%
コスト比率 （SRF を除く）	**60.8%** 前年比-5.5 ポイント	**60.6%** 前年比-4.8 ポイント	**58.2%** 前年比-4.4 ポイント	**58.0%** 前年比-4.2 ポイント

クレディ・アグリコル S.A.2021 年度第 1 四半期の基礎的データ

純利益グループ帰属分は大幅増：前年同期比 43.1%増の 9 億 3,200 万ユーロ

SRF を除く営業総利益：前年同期比 19.1%増の 23 億 1,400 万ユーロ

コスト比率（SRF を除く）：58.0%（前年同期比 4.2 ポイント低下）

リスク関連費用は、2020 年度の大幅な引当増を受けて 3 億 8,400 万ユーロに減少

強固なソルベンシー

	クレディ・アグリコル・グループ	クレディ・アグリコル S.A.
段階適用の CET1 レシオ	**17.3%** 3 月/12 月で+0.1 ポイント SREP 要件比+8.4 ポイント	**12.7%** 3 月/12 月で-0.4 ポイント SREP 要件比+4.8 ポイント
	2021 年 3 月末現在の貸倒引当金 **197 億ユーロ**	**不良債権比率は 3.2%で横這い、不良債権引当率は 72%に上昇** **スイッチの 15%を解消**

経済を保護し、押し上げ、変革するためのグループの動員

クレディ・アグリコル・グループ	クレディ・アグリコル S.A.
国家保証融資：フランスとイタリアで 352 億ユーロ **支払猶予：フランスで 7 億ユーロ、イタリアで 5 億ユーロ未満** **リテール・バンキング・ローン残高は、国家保証融資を除き 5.0%増** **住宅ローン、法人向けローンのマーケット・シェア拡大** **再生可能エネルギー民間投資家及び機関投資家としてフランス第 1 位**	**CAA が *Prêts Participatifs Relance*（復興資本増強ローン）へ保険会社として最大の拠出：22 億 5,000 万ユーロ** **LCL のローン残高は、国家保証融資を除き 3.4%増** **2020 年の再生可能エネルギー残高は 11%増** **銀行として初めて ESG プラットフォームをローンチ**

ハイライト ヨーロッパにおいて進行中の成長の取組み

- **クレディ・アグリコル・イタリアは、クレバルに対する公開買付けの成功（CAI による 1 株当たり 12.27 ユーロの支払いで 91.2%が受入）により、北イタリアにおけるマーケット・シェアを強化。**
- **アムンディは、成長する欧州 ETF 市場においてマーケット・シェアを 14%に引き上げるために、リクソーの買収についてソシエテ・ジェネラルと独占的交渉中。**

ドミニク・ルフェーブル
SAS Rue La Boétie の会長兼クレディ・アグリコル S.A.の取締役会議長

「グループの全従業員は、危機の間、経済を保護し、回復を支援することに全力を尽くしています。そして、私たちは社会変革に関する私たちの約束を果たしています。当行は 2040 年までに一般炭を完全に撤廃することを確約した最初の銀行であり、また、特に当行のエネルギー・エクスポージャー構成を評価するために、ESG プラットフォームを立ち上げた最初の銀行でもあります。」

フィリップ・ブラサック
クレディ・アグリコル S.A.最高経営責任者

「当社の第 1 四半期の業績は、顧客を支援するという当行チームの傑出したコミットメントの成果です。当グループは、基本的に有機的成長に重点を置き、事業部門と想定される対象外部事業との間の幅広い連携により支えられた、成長モデルに基づいて業務を遂行しています。景気回復と新たな国際競争の中で、当グループは回復を支援する決意を固めています。」

クレディ・アグリコル・グループ

経済を保護し、回復を支援し、社会の変革の推進に役立つための当グループの結集

危機の期間中の経済の保護に対する当グループのコミットメント

当グループは、その資本の状態と強靭なモデルにより、この公衆衛生危機が始まって以来、顧客が危機を乗り越えるための支援と、最も脆弱な顧客の保護に全力を尽くしてきています。

2020 年 3 月 25 日に**国家保証融資**（SGL）が導入されて以来、当グループはフランスの SME、スモールビジネス及び小企業からの 22 万件の申請を処理し、その総額は 323 億ユーロ[1]に上り、フランスで申請された SGL 全体のほぼ 27%に相当します。承認率は 97%を超え、当グループは様々なリテール銀行（SGL の申請の 4 分の 3 は地域銀行で処理[2]）を通じて、全地域の顧客を支援しています。当グループのフランス（LCL、地域銀行、CACIB）における SGL の純エクスポージャー総額は 31 億ユーロであり[3]、現在 SGL のごく一部がステージ 3 に分類されています（2021 年 3 月末現在 2.0%[4]）。過去 2 四半期、フランスの SGL の増加ペースは鈍化しています（2021 年 1 月 15 日比で SGL 残高は 2.5%増）。一方、イタリアでは、CA イタリアが 28 億ユーロの SGL を 4 万人の顧客に提供しており、そのペースは依然として活発です（2020 年 12 月対比で 16.7%増）。

一方で、当グループは事業活動がパンデミックによる経済的影響を受けている企業、SME 及びスモールビジネス顧客を中心に、貸付金の**支払猶予**を実施し、引き続き経済を支援していきます。2020 年 6 月の最高時で 55 万 2,000 件に支払猶予が供与され、42 億ユーロの満期が延長された後、2021 年 4 月 9 日現在で地域銀行と LCL の合計で 9 万 3,000 件が依然として支払猶予実施中であり、約 7 億ユーロの満期が繰り延べられています（内訳は、68%が SME 及びスモールビジネス並びに小企業顧客で 32%が世帯向け、87%が地域銀行で 13%が LCL[5]）。これは、フランスにおける総額 101 億ユーロの元本残高に相当します。イタリアでは、42,000 件で依然として支払猶予実施中で、5 億ユーロ弱の満期が繰り延べられています[6]。地域銀行及び LCL の支払猶予の 2%未満[7]がステージ 3 に分類されています。支払猶予期間が終了した地域銀行及び LCL の顧客の 98%超が支払を再開しています[8]。CACF でも同様で、支払猶予されたリテール及び法人顧客の 98%で支払が再開されています。

当グループは、社会的一体性を促進する公正な移行に全力で取り組んでおり、継続して社会的包摂策を展開し、脆弱な顧客の保護のための手段を講じています。この取組みは、地域銀行での「ポアン・パッセル（Points Passerelle）」、「LCL パランテーズ（LCL Parenthèse）」、CACF での「カスタマー・サポート・エージェンシー」といった、それぞれの事業部門が組成した特別なメカニズムによって支えられています。このようにして、合計 11,000 の脆弱な顧客が、ポワン・パスレルを通じて支援を受け、例えば、2,300 人が 2020 年に個人向けマイクロクレジットの供与を受けました。CAA は、包摂プログラムの一環として 170 件の現地プロジェクトを支援し、2020 年には約 250 万ユーロを拠出しました。最後に、39 カ国で活動し、75 のマイクロファイナンス機関と 12 の社会的影響事業を支援しているグラミン財団は、2020 年に 8,120 万ユーロの残高を有しています。

---

[1] *2021 年 4 月 9 日現在で申請された SGL の金額（地域銀行、LCL 及び CACIB）、承認率は 97.3%。*

[2] *顧客の申請数による内訳。金額による内訳は、地域銀行が 62%、LCL が 30%、CACIB が 8%。*

[3] *2021 年 2 月現在*

[4] *対象：LCL、地域銀行、CA イタリア、CACIB*

[5] *満期繰延分における内訳。*

[6] *CA イタリアの支払猶予期間未了の元本残高は 58 億ユーロ。一方 CA イタリアの支払猶予期間が終了した元本残高は 41 億ユーロで、そのうちの不良債権部分は 0.9%。*

[7] *2021 年 3 月現在、EBA に準拠した支払猶予及び元本に基づく*

[8] *繰り延べられ、繰延期間が終了し、支払が再開されたローンの割合を示す。地域銀行の法人、専門家、農業の顧客が対象範囲。LCL を含む。*

景気回復と新たな国際競争の中で、当グループは回復を支援する決意を固めています。

当グループは、特に全ての地域の顧客へ *Prêts Participatifs Relance*（復興資本増強ローン）の提供を確約し、積極的に景気回復に貢献しています。これらのローンは、クレディ・アグリコル・ネットワークを含む銀行によって提供されますが、準株式資本に相当し、企業がパンデミックから抜け出す際の拡張資金の調達を可能にすることで、雇用創出と投資を促進するために役立ちます。クレディ・アグリコル・グループは、*復興資本増強ローン*適格となる可能性のある企業を特定するため、顧客基盤の大規模な見直しに着手しました。最初の見積りにより、地域銀行の中小・中堅企業の顧客約 45,000 社と LCL の顧客約 8,500 社が適格となりました。これらの企業に対しては、現在担当法人アカウント・マネージャーから積極的に連絡しています。また、認知度を向上させるために、ウェビナーや情報キャンペーンが実施されています。*復興資本増強ローン*は、クレディ・アグリコルがパンデミック発生以来顧客に提供してきた一連のソリューションの一部です。当社グループでは、2020 年 3 月以降に供与した支払猶予や政府保証融資に加えて、補完的な専門分野を活用して、景気回復を支援しています。

特に、アムンディ、クレディ・アグリコル CIB、IDIA キャピタル・アンヴェスティスモン、及び 39 の地域銀行の地域資本投資会社がこれらの資本注入に関与しています。クレディ・アグリコル・アシュアランスは、*復興資本増強ローン*のための初回の 110 億ユーロの資金調達ラウンドにおいて、22 億 5,000 万ユーロを提供しており、アムンディはこれらの融資を実行するビークルの管理に関与しています。フランス政府が組成した全般的な仕組みでは、フランス内外の機関投資家から 200 億ユーロの資金調達が見込まれています（140 億ユーロはフランス語での頭字語「PPSE」として知られる政府支援の資本増強ローン、60 億ユーロは頭字語「OSSE」として知られる政府支援の劣後債）。

クレディ・アグリコルの力強いモメンタムは、従業員が景気回復の支援にどれだけ尽力しているかを証明しています。決済事業は大幅に成長しました（地域銀行におけるモバイル決済契約数：当四半期 54%増）。SGL 以外の残高は大幅に増加（4.7%増、うち地域銀行 5.0%増、LCL3.4%増）したほか、地域銀行は、住宅ローン（12 月末現在、前年同期比 0.33 ポイント増）や法人向けローン（12 月末現在、前年同期比 0.37 ポイント増）で引き続きマーケット・シェアを伸ばしています。

当グループは、社会の変革に対する責任を果たしつつあります。

当グループは、グループ・プロジェクトの人的・社会的な柱の一つとして、顧客が求め、体験している社会の変化を支援しています。例えば、グループは CSR から全般的なインパクト・マネジメントへと移行しました。2019 年 6 月には、強力なガバナンス、顧客との関係におけるエネルギー移行問題の完全な統合、融資・投資ポートフォリオの段階的な再配分を特徴とする革新的な気候戦略を発表しました。

内部的には、当グループは野心的な人事方針として認識されるような方針を取っています。当グループはフランスで最大の雇用主であり[9]、2020 年の新規雇用者の 30%は 30 歳未満でした。当グループでは、経営幹部の女性比率を高めるための施策に取り組んでおり、2020 年にはクレディ・アグリコル S.A.レベルの執行委員会及びグループ会社の意思決定機関における女性比率はそれぞれ 25%及び 24%となりました[10]。従業員の半数以上が国外で働いていることから、人材プールの国際化を進めることは当グループにとって大きな課題です。2022 年の後継者計画では、外国人候補者の比率を 20%にすることを目標としていますが、この基準は、人間中心プロジェクトの指針となる指標にも取り入れられています。

---

[9] *出典：Challenge、2021 年 3 月*

[10] *2022 年目標 30%*

当グループの革新的な気候戦略は、当グループの社会的コミットメントの実行を監督し、その ESG 戦略との整合性を確保する「グループ社会プロジェクト委員会」、それぞれの分野で著名な独立した立場の専門家 12 名で構成される「科学委員会」、気候戦略を監視する「運営委員会」の三つの統括委員会で構成される専用のガバナンス構造に何よりも依拠しています。科学委員会と運営委員会は、グループ社会プロジェクト委員会の活動を支援します。

クレディ・アグリコルは透明性を最重要視しています。2019 年、当グループは、融資及び投資ポートフォリオの一般炭へのエクスポージャーについて定期的に報告することを約束し、気候戦略の実施の認証を独立した第三者機関に委託しました。今年は、アムンディ、LCL、CAA 及び CACIB が運用するエネルギー関連の金融資産と投資資産の構成が、初めて 2020 年の共通発行者情報に記載されました[11]。

クレディ・アグリコルはまた、2020 年にグループ全体の報告範囲をカバーする非財務報告プラットフォームの使用を開始し、新たな分野を開拓しました。このプラットフォームは、全グループ事業体の主要な社会的影響指標を算出するために、社内外の非財務データを収集する唯一のものです。このプラットフォームはまた、公開データを使用して、上場企業のクライメート・トランジションに関する独自の格付けを作成します。

当グループはクライメート・トランジションを顧客関係に完全に統合しており、第 1 四半期から CACIB とアムンディで上場企業 8,000 社の変革の取組みを測定し支援するためにクライメート・トランジション格付けを使用しています。このツールは、次にグループの SME 及び中堅企業について適用されます。また、LCL の気候影響投資商品群（「LCL Placements Impact Climat」）や、グリーン・インフラに直接投資する生命保険契約適格の最初のクライメート・トランジション・ファンドであるアムンディのグリーン・エネルギー・ファンドなど、新たな投資ソリューションも顧客向けに導入されています。クライメート・トランジションとグリーン成長の取組みに関連するアムンディの運用資産は、2020 年に 80%増加して 220 億ユーロとなりました。今年初め、アムンディは最初の「Fair Transition」債券ファンドをローンチしました。

最後に、クレディ・アグリコルの気候戦略には、クライメート・トランジションのための融資と投資ポートフォリオの再配分が含まれています。クレディ・アグリコルは、再生可能エネルギーにおいてフランスで第 1 位の民間投資家・機関投資家となっています。[12]クレディ・アグリコル S.A.の 2020 年の共通発行者情報に注記されているように、大企業向け再生可能エネルギー融資ローンは 2020 年に 11%増加しました。再生可能エネルギーに投資された運用資産も同年で増加しました（22%増）。CAA は、再生可能エネルギーに 14 億ユーロ投資しました。クレディ・アグリコルは 2040 年までに一般炭からの撤廃（そして、2030 年までに欧州連合及び OECD 地域における石炭からの撤廃）を約束した最初の銀行です。石炭に特化した大企業向け融資及び運用資産は、2020 年にそれぞれ 28%及び 34%減少しました。当グループは、引き続きそれほど優遇されていない分野における SME 及び公衆衛生セクターを支援し、クレディ・アグリコル S.A.のソーシャル・ボンドのために立ち上げた参照フレームワークを通じて社会との絆の維持に役立てています。また、2020 年に、CACIB は 122 億ユーロのソーシャル・ボンドを組成しました（10%のマーケット・シェア）。

[11] *非財務業績情報に記載*

[12] *内部データ:2020 年データ*

当グループの活動

当四半期は引き続き制約がありましたが、当グループの事業は、健全かつ効率的な顧客重視のユニバーサル・バンキング・モデルの貢献により、大幅に成長しました。顧客獲得総数は非常に好調に推移し、2021 年度第 1 四半期は、46 万 9,000 人となり、このうち 43 万人がフランス、3 万 9,000 人がイタリアでした。過去 1 年間でも著しい増加となり、新規顧客は 156 万 5,000 人で、うち 143 万 8,000 人がフランス、12 万 7,000 人がイタリアでした。当グループの顧客基盤は、2021 年度第 1 四半期も引き続き拡大しました（顧客増 7 万 6,000 人）。顧客関係の強度も極めて良好です。地域銀行の顧客の 59.4%は、[13]少なくとも 4 種類の金融商品での取引があります。[14]

こうした状況を背景に、当グループの事業部門は好調な業績を達成しました。

- **クレディ・アグリコル・アシュアランスの純流入額は、ユニット・リンク型契約の流入水準が引き続き上昇（当四半期は 2020 年度第 1 四半期から 15.2%増の 20 億ユーロ）したことから、大幅な増加となりました（当四半期は 2020 年度第 1 四半期から 2.2 倍増の 17 億ユーロ）。損害保険事業も当四半期は力強さを示しました（当四半期は 2020 年度第 1 四半期から 19.0%増）。資産運用では、アムンディは当四半期中、中長期資産の好調な純流入を報告しました（ジョイント・ベンチャーを除き 98 億ユーロ）。**
- **法人営業及び投資銀行部門では、CACIB が商業銀行業務で好調な業績を達成しました。収益は、主にシンジケート・ローンの継続的な成功（フランスで第 2 位[15]、EMEA で第 4 位[16]）により、2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期から 10.7%増加しました。ストラクチャード・ファイナンスにおいても活動が増加し、2021 年度第 1 四半期の収益は、2020 年度第 1 四半期から 8.8%増加し、CACIB はグローバル・プロジェクト・ファイナンスで第 3 位[17]となっています。最後に、FICC の活動に関する資本市場の収益は、2021 年第 1 四半期は 2020 年第 1 四半期に比べ 13.5%増加しました。**
- **CACF の商業組成は力強いモメンタムを示し、2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ 4.2%増加[18]しました。3 月は特に好調で、2019 年のピーク時に近い水準でした。このような状況を背景に、運用資産は前年同期比ほぼ横ばいとなりました。**
- **リテール・バンキングでは、フランスとイタリアで貸付残高が増加しました（2021 年度第 1 四半期は、2020 年度第 1 四半期に比べ、それぞれ 8.5%及び 5.2%増加）。SGL を除いた貸付残高もまた大幅に増加し、フランスにおいて当四半期に 4.7%増加しました。同様に、顧客資産も当四半期にフランスとイタリアで大幅に増加し、それぞれ 10.2%増及び 10.7%増となりました。**

当グループの業績

2021 年度第 1 四半期のクレディ・アグリコル・グループの表示**純利益グループ帰属分**は、前年同期の 9 億 800 万ユーロから 93.2%増と大幅に増加して **17 億 5,400 万ユーロ**となりました。当四半期に計上された**特殊要因**は、**純利益グループ帰属分に対して 1 億 5,400 万ユーロのプラス影響**をもたらしました。

---

[13] *18 歳以上の個人顧客、この比率は前年同期比横這い*

[14] *金融商品の種類：預金口座、貯蓄預金、ローン、火災保険、保険、カード*

[15] *出典：トムソン・フィナンシャル 2021 年第 1 四半期*

[16] *出典：リフィニティブ 2021 年第 1 四半期*

[17] *出典：リフィニティブ（Global Project Finance Loans Bookrunners）*

[18] *CACF NL を除く*

当四半期の**特殊要因**には、DVA（債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益）の純利益グループ帰属分へのプラス影響 600 万ユーロ、大口顧客部門のローンブックのヘッジの純利益グループ帰属分へのマイナス影響 500 万ユーロ及び住宅購入貯蓄プラン引当金の純利益グループ帰属分へのマイナス影響 2,500 万ユーロなどの、収益における変動の大きい経常的な会計項目が含まれています。これらの経常項目に加えて、単一破綻処理基金（SRF）への 2016 年度から 2020 年度までの拠出の過払金 1 億 8,500 万ユーロの還付、KAS バンク/サンタンデール・セキュリティーズ・サービシズの統合費用によるマイナス 200 万ユーロの純利益グループ帰属分への影響、及びウェルス・マネジメント部門内で処分中のマイアミとブラジルにおけるウェルス・マネジメント活動の損失マイナス 500 万ユーロがありました。2020 年第 1 四半期には、特殊要因は**純利益グループ帰属分に対して 7,300 万ユーロのマイナス影響**をもたらしました。これらには、債務評価調整（DVA）のマイナス 1,400 万ユーロ、大口顧客向けローンブックのヘッジのプラス 8,300 万ユーロ、住宅購入貯蓄プラン引当金の変動のマイナス 7,800 万ユーロなどの収益の経常的な会計変動項目、CACEIS による KAS バンク及びサンタンデール・セキュリティーズ・サービシズの統合/買収費用のマイナス 200 万ユーロ、並びに COVID-19 に関連する連帯基金拠出金の営業費用影響によるマイナス 6,200 万ユーロが含まれていました。

これらの特殊要因を除いた**クレディ・アグリコル・グループの基礎純利益グループ帰属分**[19]は、前年同期比 63.0%増の **15 億 9,900 万ユーロ**でした。一方、基礎営業総利益は、SRF 拠出金が 6 億 5,200 万ユーロとなり、2020 年第 1 四半期の拠出に比べ 43.5%増加し、2020 年の年間拠出金に比べ 16%増[20]となった影響を受けましたが、2020 年度第 1 四半期から 19.8%増と大幅に増加し、29 億 3,000 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ ― 表示実績と基礎的実績（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

€m	Q1-21 stated	Specific items	Q1-21 underlying	Q1-20 stated	Specific items	Q1-20 underlying	Δ Q1/Q1 stated	Δ Q1/Q1 underlying
Revenues	**9,049**	**(33)**	**9,082**	**8,366**	**(12)**	**8,378**	+8.2%	+8.4%
Operating expenses excl. SRF	(5,505)	(4)	(5,501)	(5,548)	(70)	(5,478)	(0.8%)	+0.4%
SRF	(467)	185	(652)	(454)	-	(454)	+2.8%	+43.4%
Gross operating income	**3,078**	**148**	**2,930**	**2,363**	**(82)**	**2,445**	**+30.2%**	**+19.8%**
Cost of risk	(537)	-	(537)	(930)	-	(930)	(42.3%)	(42.3%)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Equity-accounted entities	94	-	94	91	-	91	+3.6%	+3.6%
Net income on other assets	13	-	13	5	-	5	x 2.4	x 2.4
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**2,648**	**148**	**2,500**	**1,530**	**(82)**	**1,612**	**+73.1%**	**+55.1%**
Tax	(720)	11	(731)	(481)	7	(487)	+49.8%	+50.0%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(6)	(5)	(1)	(0)	-	(0)	x 14.6	x 2.2
Net income	**1,921**	**153**	**1,768**	**1,048**	**(75)**	**1,124**	**+83.3%**	**+57.3%**
Non controlling interests	(168)	1	(169)	(140)	2	(142)	+19.4%	+18.4%
Net income Group Share	**1,754**	**154**	**1,599**	**908**	**(73)**	**981**	**+93.2%**	**+63.0%**
Cost/Income ratio excl. SRF (%)	**60.8%**		**60.6%**	**66.3%**		**65.4%**	**-5.5 pp**	**-4.8 pp**

[19] *特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。*

[20] *2020 年度第 2 四半期に 1 億 700 万ユーロの SRF 拠出金を追加計上。*

2021 年度第 1 四半期の**基礎収益**は、パンデミックにもかかわらず、全事業にわたっての持続的な活動の貢献により、2020 年度第 1 四半期比 8.4%増の 90 億 8,200 万ユーロとなりました。一部の事業では、活動水準は危機前の水準に戻りました。アセット・ギャザリング部門及び大口顧客部門は、事業の好調に加えて市場の回復により、それぞれ 18.6%増（2 億 4,900 万ユーロ増）及び 11.9%増（1 億 7,700 万ユーロ増）と大幅な増収となりました。フランスのリテール・バンキングでは地域銀行が主としてポートフォリオの市場価格での再評価の影響により 2020 年度第 1 四半期から 9.9%（3 億 2,000 万ユーロ）増と大幅な増加を示しましたが、LCL は当四半期に 1.9%の増収と、より小幅の増収となりました。専門金融サービス部門は当四半期に底堅さを示し、収益は 0.5%の減少に止まりました。CACF の収益は、2021 年度第 1 四半期に好調な組成水準に戻ったにもかかわらず連結貸付残高が前年に比べて横這いになったことにより、当四半期は 3.1%減少したものの、同一基準ベースでは横這いを維持しました（0.1%増[21]）。CAL&F はポーランド及びフランスにおけるリース業務が好調な水準で推移した恩恵を受けて、10.0%増と力強い収益成長を記録しました。CA イタリアは、管理貯蓄及び保険からの手数料収入が高水準であったことが貢献し、当四半期は大幅な増収（9.8%増）を記録しました。一方、イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、2020 年度第 2 四半期のエジプト、ポーランド及びウクライナにおける基準金利引下げにより、11.5%（2,900 万ユーロ）の減収となりました。しかし、2020 年度第 3 四半期以降は回復が進んでいます。

単一破綻処理基金（SRF）を除いた基礎営業費用は、2021 年度第 1 四半期は 55 億 100 万ユーロとなり、前年同期比**ほぼ横這い**（0.4%増）となりました。リテール・バンキング部門及び専門金融サービス部門では、それぞれ 0.3%（1,100 万ユーロ）及び 4.9%（1,700 万ユーロ）減少しました。CACF の費用は同一基準では 6.6%減少し、CACF NL を IFRS 第 5 号に基づいて売却目的保有資産として分類変更した連結の範囲の影響を除いた場合は 1.6%の減少となりました。大口顧客部門の費用は、CIB における変動報酬及び CACEIS の開発プロジェクトについて引当金が増加したことに伴い、前年同期比 3.3%増（2,900 万ユーロ増）と緩やかな増加となりました。アセット・ギャザリング部門では、費用が 2.1%（1,600 万ユーロ）増加しましたが、これは主にサバデル AM の統合並びにアムンディ BOC 及びファンド・チャネルの設立に関連する連結の範囲の影響（1,200 万ユーロ増）によるものです。

全体として、当グループでは **8.0 ポイントのプラスの乖離効果**が生まれ、2021 年度第 1 四半期の **SRF を除いた基礎コスト比率**は 4.8 ポイント低下して 60.6%になりました。当四半期の単一破綻処理基金への拠出金は 6 億 5,200 万ユーロとなり、前年同期に比べ 43.4%増加しました。なお、2016 年度から 2020 年度の過払金 1 億 8,500 万ユーロの還付は、当四半期に計上され、特殊要因に分類されています。この還付を考慮に入れると、SRF への拠出金は 2020 年度に比べ 2021 年度は 28%増加しています（5 億 900 万ユーロから 6 億 5,200 万ユーロ）。

基礎営業総利益は、前年同期比 19.8%増加して 29 億 3,000 万ユーロとなりました。

信用リスク関連費用は、5 億 3,700 万ユーロ（ステージ 1 及びステージ 2 のリスク関連費用 1 億 4,700 万ユーロ並びにステージ 3 のリスク関連費用 3 億 7,100 万ユーロを含む）となり、2020 年度第 1 四半期の 9 億 3,000 万ユーロ及び 2020 年度第 4 四半期の 9 億 1,900 万ユーロに比べ、それぞれ 42.3%及び 41.6%減少しました。この変動を構成する要因のうち、確認されたリスク（ステージ 3）に対する引当のみが、2020 年度第 4 四半期から 2021 年度第 1 四半期の間で増加しました。この間に引当は 11%増加しました。当四半期のリスク関連費用の減少は特に地域銀行（2020 年度第 1 四半期対比で 1/1.9、2020 年度第 4 四半期対比で 1/2.7）、ファイナンス事業（2020 年度第 1 四半期対比で 38.2%減、2020 年度第 4 四半期対比で 30.0%減）及び CA コンシューマー・ファイナンス（2020 年度第 1 四半期対比で 30.4%減、2020 年度第 4 四半期対比で 11.0%減）で顕著でした。LCL（2020 年度第 1 四半期対比で 17.9%減、2020 年度第 4 四半期対比で 7.5%減）及び CA イタリア（2020 年度第 1 四半期対比で 13.6%減、2020 年度第 4 四半期対比で 36.8%減）での減少は、これらよりも小幅でした。資産の質は良好で、不良債権比率は 2021 年 3 月末で 2.3%となり、2020 年 12 月末からほぼ横ばいで推移しましたが、不良債権引当率[22]は当四半期中に上昇し（2020 年 12 月末比 0.5 ポイント上昇）、84.4%と高水準になりました。分散型ローンブックでは、主に住宅ローン（グループレベルで残高総額の 47%）と企業向け（グループレベルで残高総額の 32%）に重点が置か

[21] *2020 年度第 3 四半期より IFRS 第 5 号に従って分類されている CA コンシューマー・ファイナンス NL を除く*

[22] *ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率*

れています。貸倒引当金は、2021 年 3 月末現在で 197 億ユーロとなり、このうち 35%は正常債権（ステージ 1 及びステージ 2）に対する引当金でした。貸倒引当金は 2020 年 12 月に比べ、1 億ユーロ増加しました。2020 年度第 1 四半期より、グローバル経済情勢に関連する状況と不確実性が考慮されるようになり、また、将来のリスクを見越して政府施策の予想効果が織り込まれました。引当水準は、状況の急激な悪化を反映し、**いくつかの加重された経済シナリオ**を考慮に入れ、リテール・バンキング・ポートフォリオ及び企業ポートフォリオには一律調整、そして一部のターゲット部門すなわち観光、自動車、航空宇宙、小売、繊維品、及びエネルギーには個別追加を適用して設定されました。正常債権に対する引当を決定するために、いくつかの加重経済シナリオが用いられました。これらは 2020 年の URD で示されたものと変わらず、より楽観的なシナリオ（フランスの GDP は 2021 年に 7.1%成長、2022 年に 2.7%成長）と、それほど楽観的ではないシナリオ（フランスの GDP は 2021 年に 3.0%増、2022 年に 4.8%増）を含んでいます。

残高に対する信用リスク関連費用[23]は、ローリング 4 四半期で 33 ベーシス・ポイントでした。 四半期の年換算ベース[24]では 22 ベーシス・ポイントでした。ステージ 1 及びステージ 2 の債権に対するリスク関連費用は、2020 年度第 1 四半期の 3 億 9,800 万ユーロ及び 2020 年度第 4 四半期の 6 億 5,100 万ユーロに対して 1 億 4,700 万ユーロとなりました。ステージ 3 のリスク関連費用は 3 億 7,100 万ユーロとなり、これに対して 2020 年度第 1 四半期は 5 億 1,600 万ユーロ、2020 年度第 4 四半期は 3 億 3,400 万ユーロでした。

当四半期の**税引前基礎利益は、前年同期比 55.1%増の 25 億ユーロ**でした。税引前基礎利益には、上記の変動に加えて、持分法適用会社の寄与 9,400 万ユーロ（3.6%増）及び他の資産に関する純利益プラス 1,300 万ユーロ（前年同期はプラス 500 万ユーロ）が含まれています。この寄与には地域銀行のバンコアの売却影響 1,000 万ユーロが含まれています。当四半期の基礎税金費用は 50.0%増でした。基礎税率は 30.4%となり、2020 年度第 1 四半期の 32.1%からわずかに低下しました。実際のところ、税率は四半期ベースでは有意義なものではありません。非支配持分控除前の基礎純利益は 57.3%増加して 17 億 6,800 万ユーロとなりました。非支配持分は 18.4%増加しました。これは主に、保険において 1 株当たり利益に影響を与えずに劣後債務（RT1）のクーポンの認識方法を変更したことによるものです。最後に、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は 2020 年度第 1 四半期に比べ大幅に増加（63.0%増）して 15 億 9,900 万ユーロとなりました。

地域銀行

パンデミックにもかかわらず、2021 年度第 1 四半期の地域銀行の事業は好調でした。実際に、当四半期中に地域銀行は、総数で前年同期比 14%増で、危機前の 2019 年度第 1 四半期に近い水準の 33 万 8,000 人の新規顧客を顧客基盤に加えました。顧客関係でも強固な関係を維持しており、2021 年 3 月末時点で、顧客[25]の 59.4%が少なくとも 4 種類の銀行サービス[26]で口座を有しています。当グループでは、引き続きマルチチャネルモデルの開発を進め、オンライン署名は前年同期比 80%増となりました。

---

[23] *ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。*

[24] *年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。*

[25] *18 歳以上の個人顧客*

[26] *5 種類の銀行サービス：預金口座、貯蓄預金、ローン、保険、カード*

2021 年度第 1 四半期の**国家保証融資を除く貸付の組成**は特に好調で、2020 年度第 1 四半期と比較して+3.4%増、2019 年度第 1 四半期と比較して+10.6%増 となりました。**貸付残高**は 2021 年 3 月末で 5,708 億ユーロ（SGL を除いて 5,538 億ユーロ）となり、2020 年 3 月末に比べ 8.2%増加（SGL を除くと 5.0%増加）しました。**住宅ローン**は大幅に増加（6.7%増）して 3,452 億ユーロとなり、**専門市場に供与された融資**[27]も同様に大幅増（14.2%増、SGL を除くと 2.4%増）となりました。**オン・バランスシート顧客貯蓄**は 2021 年 3 月末で 5,272 億ユーロとなり、2020 年 3 月末に比べ 12.1%、2020 年 12 月末に比べ 1.8%、それぞれ増加しました。これは、要求払預金の力強い増加によるもので、要求払預金は 2021 年度第 1 四半期に 2.4%増加して、前年同期比 23.3%増の 2,124 億ユーロとなりました。**オフ・バランスシートの顧客貯蓄**は 2021 年 3 月末 2,776 億ユーロとなり、前年同期比 6.7%増加しました。オフ・バランスシートの顧客貯蓄は特に、市場の評価額の増加及び良好な水準の総流入額（非常に高い水準であった 2019 年度第 1 四半期の水準を回復）の貢献による生命保険資産（2021 年 3 月末時点で 2,033 億ユーロ）の 3.1%増加の恩恵を受けました。これは特に、ユニット・リンク型契約によるものであり、ユニット・リンク型契約は 2021 年度第 1 四半期の総流入額の 35.4%を占め、2019 年度第 1 四半期の流入額の 1.9 倍となりました[28]。有価証券及び UCITS に関連する残高は、2020 年 3 月末に比べて市場が回復した恩恵を受けて、前年同期比それぞれ 20.1%及び 14.3%増加しました。

2021 年度第 1 四半期に、地域銀行の基礎**収益**は前年同期に比べ 9.9%増加して 35 億 5,400 万ユーロとなりました。これは市場効果及び有利な条件による流動性調達によるものであり、**手数料収入**の全体的な水準は、決済に関連する手数料収入が減少した結果、当四半期に減少しました（3.1%減）。当四半期の **SRF を除く営業費用**は 22 億 6,700 万ユーロで、十分に管理された水準（2020 年度第 1 四半期比 0.6%増）でしたが、主に人件費が増加しました。SRF 拠出金は 1 億 4,100 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期から 50.3%増加しました。その結果、**基礎営業総利益**は前年同期比 29.2%増となりました。**リスク関連費用**は、パンデミックに関連して正常債権（ステージ 1 及びステージ 2）に対する多額の引当（1 億 7,600 万ユーロ）を含んでいた 2020 年度第 1 四半期に比べ大幅に減少（50.1%減）して 1 億 5,300 万ユーロとなりました。2021 年の第 1 四半期のステージ 1 及びステージ 2 のリスク関連費用は合計 5,700 万ユーロでした。残高に対するリスク関連費用はローリング 4 四半期で 16 ベーシス・ポイント、年換算ベースで 11 ベーシス・ポイントでした。不良債権比率は 1.7%（2020 年 12 月末比横ばい）、貸倒引当金は 100 億ユーロ（2020 年 12 月末比横ばい）となりました。この結果、2021 年 3 月末の不良債権引当率は、2020 年 12 月末（100.9%）に比べ小幅上昇し、高水準の 101.2%（2020 年 12 月末に比べ 0.4 ポイント上昇）となりました。当グループの**基礎純利益グループ帰属分**に対する地域銀行の貢献は、2020 年度第 1 四半期から倍増し、6 億 5,500 万ユーロとなりました。フランスの基準で、市場価値での再評価によるプラスの影響を考慮に入れない場合、当期純利益の増加は前年同期比 18.0%増と増加はより緩やかになります。

クレディ・アグリコル・グループの他の事業部門の業績については、本プレスリリースのクレディ・アグリコル S.A.に関するセクションに記述されています。

---

[27] *専門市場：企業、SME 及びスモールビジネス、農業者並びに地方自治体。*

[28] *範囲：プレディカ*

クレディ・アグリコル S.A.

依然として規制の影響下にある 2021 年度第 1 四半期に好調な業績

- **資産運用における好調な MLT 資金の純流入**(プラス 98 億ユーロ)及びユニット・リンク型商品(プラス 20 億ユーロ)がけん引した**保険での純流入**(プラス 17 億ユーロ)
- **法人営業及び投資銀行部門で確認された主導的地位**:シンジケート・ローン(フランスで第 2 位、EMEA で第 4 位)、プロジェクト・ファイナンス(グローバル・プロジェクト・ファイナンスで第 3 位)、債券(フランスの社債で第 1 位)及び多様化した資本市場活動
- **CA コンシューマー・ファイナンスにおけるローン組成の良好なモメンタム(前年同期比 4.2%増)**
- **LCL の貸付残高**(前年同期比 9.6%増、SGL を除いた場合は 3.4%増)と顧客資産(前年同期比 10.1%増)**の大幅な増加**

純利益グループ帰属分は大幅増:前年同期比 43.1%増

- **全事業にわたる好調なモメンタムによる前年同期比増収:5 年に及ぶ着実な収益拡大**
- **SRF を除く費用は横這い**(第 1 四半期の基礎的 SRF は 1 億 5,000 万ユーロ増加したが、2016 年度から 2020 年度の過払金の還付後では、SRF は 1 億 3,000 万ユーロ減少)。
- **SRF を除く基礎営業総利益は前年同期比 19.1%増**
- **業務効率の改善**(SRF を除く基礎的比率は前年同期比 4.2 ポイント低下の 58%)

強固なソルベンシー

- **非常に良好な資本ポジション**:クレディ・アグリコル S.A.の CET 1 レシオは 12.7%で、SREP 要件を 4.8 ポイント上回り、0.4 ポイント低下。このうち 0.2 ポイントは、2021 年 3 月 1 日にスイッチ・メカニズムの 15%が追加で解消されたことに関連し、14 ベーシス・ポイントは配当性向 50%の方針に基づく配当金引当に関連。

欧州における 2 つの価値創造型成長の取組み

アムンディは 2021 年 4 月 7 日、ソシエテ・ジェネラルとの間で、リクソーを超過資本を除き現金 7 億 5,500 万ユーロで買収する独占交渉に入った旨を発表しました[29]。この取引により、アムンディは運用資産が 1,420 億ユーロ、欧州におけるマーケット・シェア 14%で、欧州における ETF 運用において首位となります。リクソーから取得する事業は 1,240 億ユーロの資産を有しています。リクソーは ETF 市場における主要なプレーヤー(運用資産 770 億ユーロ[30]、7.4%のマーケット・シェア[31]で欧州第 3 位のプレーヤー)の 1 社であり、特にその主導的な代替プラットフォーム[32]を通して、アクティブ運用(470 億ユーロ)において一般に評価されている専門知識を発展させてきました。シナジーの可能性が高いことを考慮すると、アムンディの財務規律に準拠したこの取引は、ランレートによるコストのシナジーのみに基づいて、完了後 3 年目に 10%を超える投資収益率[33]となり、価値の増幅効果が高いものとなるでしょう。この取引がクレディ・アグリコル S.A.の CET1 レシオに与える影響は、2022 年度第 1 四半期に予想される取引完了時点でマイナス 15 ベーシス・ポイント程度に限定されると見積もられています。

CA イタリアは 2021 年 4 月 23 日、クレディト・ヴァルテッリネーゼ(クレバル)の全株式を対象とした、任意の株式公開買付けの成功を発表しました。CA イタリアはクレバルの株式の 91.2%を 7 億 8,500 万ユーロ、1 株当たり 12.27 ユーロで取得しました。これにより、総顧客資産(運用資産及び保管資産)[34]でイタリアの 6 番目の銀行として地位を強化し、ロンバルディアでのマーケット・シェアを倍増(3%から 6%超[35])させました。この取引は、ランレート及び流動

---

[29] *超過資本込みで 8 億 2,500 万ユーロ*

[30] *2020 年 12 月 31 日現在*

[31] *出典:アムンディ、リクソー、ETFGI、2020 年 12 月末現在*

[32] *民間銀行及び資産運用会社向けの流動性代替資産(特に UCITS ファンド)の投資プラットフォーム*

[33] *収益シナジーを含め、13%を超える ROI*

[34] *出典:2020 年 9 ヶ月累計の会社データ又は最新の公開情報及び行内推定値注:サンプルには、クレディ・アグリコル・イタリア、クレディト・ヴァルテッリネーゼ、インテーザ・サンパオロ(ゴーイング・コンサーンの BPER への移転に関するプロフォーマ)、ウニクレディト(運用資産、保管資産及び顧客向け商業銀行)、バンコ BPM、バンカ・モンテ・デイ・パスキ・ディ・シエナ、ICCREA、BPER(ゴーイング・コンサーンの取得の関するプロフォーマ)、BNL、クレデム、バンカ・ポポラレ・ソンドリオ及びカリジェが含まれます。*

[35] *会社データ(クレディ・アグリコル・イタリアの数値は 2020 年 9 ヶ月累計、クレディト・ヴァルテッリネーゼの数値は 2019 年度)*

性調達コストのシナジーのみに基づいて、3 年目に 10%を超える投資収益率となり、価値の増幅効果が高いものとなるでしょう。この取引が与える、クレディ・アグリコル S.A.の CET1 レシオに与える影響はマイナス 20 ベーシス・ポイントと限定的なものとなります。[36]クレディ・アグリコル・イタリアは、クレバルを上場廃止し、2022 年にこの合併を完了させる予定です[37]。

2021 年度第 1 四半期の財務諸表を検証するため、ドミニク・ルフェーブルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2021 年 5 月 6 日に開かれました。

活動

クレディ・アグリコル S.A.の事業は、2021 年度第 1 四半期に非常に良好な水準の活動を記録しましたが、依然として規制の影響を受けています。

- クレディ・アグリコル・アシュアランスの純流入額は、ユニット・リンクの流入水準が引き続き上昇（当四半期は 15.2%増の 20 億ユーロ）したことから、大幅に増加しました（2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ 2.2 倍の 17 億ユーロ）。総流入額に占めるユニット・リンク商品の割合は 40.7%と、前年同期並みの高水準を維持しました。当四半期は損害保険事業も好調でした。新規契約は 2021 年度第 1 四半期に 2020 年度第 1 四半期に比べ 19.0%増加し、クロスセル[38]はその上昇軌道を継続し、LCL は 25.9%（2020 年度第 1 四半期に比べ 0.7 ポイント増）、CA イタリアは 17.7%（2.0 ポイント増）となりました。資産運用では、アムンディが当四半期中に中長期資産の好調な純流入を示し（ジョイント・ベンチャーを除きプラス 98 億ユーロ）、運用資産は前年同期比で増加しました（2021 年 3 月末現在でサバデル AM[39]の連結を含めて、14.9%増の 1 兆 7,550 億ユーロ）。
- 法人営業及び投資銀行部門では、CACIB の商業銀行業務が好調に推移しました。2021 年度第 1 四半期の収益は、シンジケート・ローン（フランスで第 2 位、EMEA で第 4 位[40]）で好調な業績が継続したことにより、2020 年度第 1 四半期と比較して 10.7%増加し、為替の影響を除いては 16.7%増加しました。ストラクチャード・ファイナンスの活動も堅調で、収益は 2020 年度第 1 四半期と比較して 8.8%増、為替の影響を除いた場合は 12.6%増となり、ほとんどの商品ラインで増収となりました（グローバル・プロジェクト・ファイナンスで第 3 位）。資本市場の活動もまた、非常に良いパフォーマンスを記録し、非線形商品、債券発行市場及び証券化が主要因となり、FICC の収益が当四半期に 13.5%成長し、2016 年以降で最高の第 1 四半期となりました。当社グループは、良好なポジション（フランスの社債で第 1 位）を維持し、慎重なリスク・プロファイル（3 月 31 日現在の VaR600 万ユーロ）を維持しています。
- CACF の商業組成は力強い上昇の勢いを示し（2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ 4.2%増[41]）、特に 3 月は 2019 年のピークに近い水準となりました。このような状況を背景に、運用資産は前年同期比ほぼ横ばいとなりました。
- リテール・バンキング部門の貸付残高は増加しました。LCL は SME 及びスモールビジネス顧客が 11.4%増加したことが原動力となり前年同期比 9.6%成長し、CA イタリアは全てのセグメントで力強い勢いを示し、5.2%成長しました。また、国家保証融資を除く貸付残高も大幅に大きく増加しました（LCL で 3.4%増）。同様に、LCL では要求払預金が個人顧客（3 月末で前年同期比 14%増）並びに SME 及びスモールビジネス/小企業・小企業（3 月末で前年同期比 49%増）で増加したことから顧客資産が大幅に増加（10.1%増）し、また CA イタリアでも 10.7%増加しました。

---

[36] *PPA の詳細な分析前*

[37] *クレバルの業績は 2021 年度第 2 四半期からクレディ・アグリコル S.A.の業績に連結されます。*

[38] *自動車、住宅、健康、法務、携帯電話又は個人傷害保険*

[39] *サバデル AM は 2020 年 7 月 1 日よりアムンディの連結の範囲に組み込まれており、運用資産は 207 億ユーロです。*

[40] *出典：トムソン・フィナンシャル 2021 年第 1 四半期*

[41] *CACF NL を除く*

業績

クレディ・アグリコル S.A. ー 表示実績と基礎的実績（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

€m	Q1-21 stated	Specific items	Q1-21 underlying	Q1-20 stated	Specific items	Q1-20 underlying	Δ Q1/Q1 stated	Δ Q1/Q1 underlying
Revenues	**5,493**	**(15)**	**5,508**	**5,200**	**63**	**5,137**	**+5.6%**	**+7.2%**
Operating expenses excl.SRF	(3,197)	(4)	(3,193)	(3,254)	(60)	(3,194)	(1.8%)	(0.0%)
SRF	(380)	130	(510)	(360)	-	(360)	+5.6%	+41.7%
Gross operating income	**1,916**	**111**	**1,805**	**1,586**	**3**	**1,583**	**+20.8%**	**+14.0%**
Cost of risk	(384)	-	(384)	(621)	-	(621)	(38.2%)	(38.2%)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Equity-accounted entities	87	-	87	90	-	90	(3.5%)	(3.5%)
Net income on other assets	3	-	3	5	-	5	(35.9%)	(35.9%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	n.m.	n.m.
Income before tax	**1,622**	**111**	**1,511**	**1,060**	**3**	**1,057**	**+53.0%**	**+42.9%**
Tax	(378)	5	(384)	(261)	(17)	(243)	+45.0%	+57.5%
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	(6)	(5)	(1)	(0)	-	(0)	n.m.	n.m.
Net income	**1,238**	**112**	**1,126**	**799**	**(15)**	**813**	**+55.0%**	**+38.5%**
Non controlling interests	(193)	1	(194)	(161)	1	(162)	+19.6%	+19.9%
Net income Group Share	**1,045**	**113**	**932**	**638**	**(14)**	**652**	**+63.9%**	**+43.1%**
Earnings per share (€)	**0.32**	**0.04**	**0.28**	**0.17**	**(0.00)**	**0.17**	**+91.6%**	**+63.6%**
Cost/Income ratio excl.SRF (%)	**58.2%**		**58.0%**	**62.6%**		**62.2%**	**-4.4 pp**	**-4.2 pp**

クレディ・アグリコル S.A.の **2021 年度第 1 四半期**の**表示純利益グループ帰属分**は、前年同期の 6 億 3,800 万ユーロに対して 10 億 4,500 万ユーロでした。当四半期は、収益レベルで、変動の大きい経常的な会計項目の影響を受け、具体的には、DVA（債務評価調整、すなわち当グループの発行体スプレッドの変動に関連する金融商品の損益）のプラス 600 万ユーロの純利益グループ帰属分影響、大口顧客部門のローンブックのヘッジのマイナス 500 万ユーロ純利益グループ帰属分影響、及び住宅購入貯蓄プラン引当金の変動マイナス 1,100 万ユーロの純利益グループ帰属分影響がありました。これらの経常項目に加えて、以下の項目の影響がありました。SRF への 2016 年度から 2020 年度までの拠出の過払金の還付プラス 1 億 3,000 万ユーロ[42]、KAS バンク/サンタンデール・セキュリティーズ・サービシズの統合費用マイナス 200 万ユーロの純利益グループ帰属分影響、及びウェルス・マネジメント部門内で非継続事業又は売却目的保有事業のマイアミとブラジルにおけるウェルス・マネジメント活動の損失マイナス 500 万ユーロ。2020 年度第 1 四半期の特殊要因は純利益グループ帰属分に純額で 1,400 万ユーロのマイナス影響があり、これらには、DVA の影響マイナス 1,400 万ユーロ、及び大口顧客部門のローンブックのヘッジのプラス 8,100 万ユーロ、及び住宅購入貯蓄プラン引当金の変動マイナス 2,700 万ユーロの収益への影響、並びに KAS バンクとサンタンデール・セキュリティーズ・サービシズの CACEIS による統合/取得費用マイナス 200 万ユーロ、及び COVID-19 に関連した連帯基金への拠出影響マイナス 5,200 万ユーロの営業費用への影響が含まれています。

これらの特殊要因を除いた**基礎純利益グループ帰属分**[43]は、危機前の 2020 年度第 1 四半期と比較しても良好な事業の成長の貢献により、前年同期に比べ 43.1%増加して **9 億 3,200 万ユーロ**となりました。

2021 年度第 1 四半期の**基礎収益**は 55 億 800 万ユーロとなり、前年同期に比べ 7.2%増加しました。アセット・ギャザリング部門の収益は、資産運用における過去最高水準の成功報酬及び手数料収入並びに市場効果の恩恵を受けました（2020 年度第 1 四半期比 20.0%増収）。大口顧客部門の収益は、全ての事業部門における良好な業績並びに法人営業及び投資銀行部門における商品ラインの補完的構成を背景に、増加しました（12.1%増）。専門金融

[42] *これらの修正再表示項目を総合すると、SRF の費用は 2020 年から 2021 年の間に 26%増加したことになります（4 億 700 万ユーロから 5 億 1,000 万ユーロ）。*

[43] *特殊要因を除く、基礎的項目。特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。*

サービスについては、当四半期末における活発な商業組成の貢献による消費者金融の回復力、及び CALF の活動の増加により、収益はほぼ横ばいとなりました（0.5%減）。リテール・バンキング部門の収益は、国際リテール・バンキングの収益が減少したにもかかわらず、CA イタリアの好調な組成のモメンタム及び良好な流動性調達条件の恩恵を受けた LCL の金利マージン（純額）の貢献により前年同期比 2.5%増加しました。国際リテール・バンキングの減収は 2020 年度第 2 四半期に実施された各国の国内基準金利の引下げによりますが、これらの金利は 2020 年度第 3 四半期以降上昇しています。

当四半期の **SRF（単一破綻処理基金）を除く基礎営業費用**は 31 億 9,300 万ユーロとなり、前年同期とほぼ同水準（-0.0%）となりました。アセット・ギャザリング部門では、連結の範囲の影響（サバデル AM、アムンディ BOC WM 及びファンド・チャネルの設立、影響額 1,200 万ユーロ）及び変動報酬の増加に伴う資産運用において費用が増加し、保険における税金の減少に伴う著しい費用減及びウェルス・マネジメントにおける減少で部分的に相殺されましたが、全体では SRF を除く営業費用は 2.1%増加しました。大口顧客部門では、好調な活動水準に伴う変動報酬引当の増加及び機関向け金融サービスについての連結の範囲の影響により、SRF を除いた営業費用は前年同期に比べ 3.3%増加しました。専門金融サービス事業は、2020 年度第 1 四半期と比較して費用が 4.9%減少し、（CA コンシューマー・ファイナンス NL を除いた場合は 0.8%減）、SRF を除いたコスト比率は 52.0%となり、前年同期から 2.4 ポイント改善しました。SRF を除く営業費用は、リテール・バンキング部門で 1.7%減少し、LCL 及び国際リテール・バンキングでは、SRF を除くコスト比率は非常に良好で、それぞれ 63.4%及び 59.9%となりました。

IFRIC 解釈指針第 21 号の影響は 6 億 8,000 万ユーロであり、これに含まれる 2021 年度の SRF の費用 5 億 1,000 万ユーロ[44]は、2020 年度第 1 四半期と比較して 41.5%増（1 億 5,000 万ユーロ増）で、2021 年度の 2020 年度[45]対比では 16% 増加しました。SRF 費用の増加は、主に大口顧客部門（2020 年度第 1 四半期比 64.4%増（1 億 2,800 万ユーロ増））及びリテール・バンキング部門（2020 年度第 1 四半期比 56.9%増（2,900 万ユーロ増））に関連しています。尚、2016 年から 2020 年の過払いに対する還付は、2021 年度第 1 四半期における特殊要因として会計処理されています。これらの調整を考慮すると、SRF の増加は、2020 年から 2021 年の間で 26%となります（4 億 600 万ユーロから 5 億 1,000 万ユーロ）。

この結果、2021 年度第 1 四半期の基礎**営業総利益**は、非常に力強い水準となりました。基礎営業総利益は、SRF が 41.5%増加したものの、収益成長（前年同期比 7.2%（3 億 7,000 万）増加）及び SRF を除く費用の適切な抑制（マイナス 0.0%（1 百万ユーロ減））により、14.0%増加して 18 億 500 万ユーロとなりました。クレディ・アグリコル S.A. は、当四半期も業務レベルで優れた機敏性を示し、コスト比率（SRF を除く）は 58.0%となり、2020 年度第 1 四半期から 4.2 ポイント改善しました。当四半期の乖離効果は、プラス 7.2 ポイントとなりました。事業別では、営業総利益は 2020 年度第 1 四半期に比べ、アセット・ギャザリング部門（45.5%増）、フランスのリテール・バンキング及び国際リテール・バンキング（5.6%増）、大口顧客部門（5.6%増）及び専門金融サービス部門（3.7%増）で増加しました。これにより、SRF を除く**基礎営業総利益**は、2020 年度第 1 四半期に比べ 19.1%増加しました。

---

[44] *単一破綻処理基金（SRF）は 2014 年に創設されました。これはユーロ圏加盟国が資金を提供する超国家的基金であり、特に銀行の破綻処理に使用される資金をプールすることを可能にしています。単一破綻処理基金は、2016 年からの 8 年間にわたり、各国の破綻処理基金からの拠出により徐々に蓄積され、2023 年までに参加加盟国全体の全ての承認された信用機関の対象預金の少なくとも 1%に達することが目標とされています。*

[45] *3 月に SRB から連絡されたより正確な情報に基づいて第 1 四半期に計上されました。*

2021 年 3 月 31 日現在、リスク指標は**クレディ・アグリコル S.A.の資産とリスクに対する引当水準の質の高さ**を裏付けています。分散されたローンブックでは、主に住宅ローン（残高総額の 27%）と企業向け（クレディ・アグリコル S.A.の残高総額の 45%）に重点が置かれています。不良債権の比率は 3.2%と依然として低水準にある（2020 年 12 月 31 日と同水準）一方で、不良債権引当率[46]は 72%となり、当四半期中に 0.6 ポイント上昇しました。クレディ・アグリコル S.A.の貸倒引当金は 97 億ユーロとなり、2020 年 12 月 31 日から 1 億ユーロ増加しました。この貸倒引当金のうち、28%は正常債権に対する引当でした。当四半期の引当水準は、2020 年度末に提示されたシナリオから変化していない**いくつかの加重経済シナリオ**に基づいており、フランスの GDP について楽観的シナリオ（2021 年にプラス 7.1%、2022 年にプラス 2.7%）及びそれほど楽観的ではないシナリオ（2021 年にプラス 3.0%、2022 年にプラス 4.8%）[47]があり、リテール・バンキング・ポートフォリオ及び企業向けに対する一律調整と、航空宇宙、ホテル、観光、レストランなどのいくつかの対象セクターに対する特定の追加引当が含まれています。

リスク関連費用は著しく減少しました（2020 年度第 1 四半期の 6 億 2,100 万ユーロに比べ 38.2%減/2 億 3,700 万ユーロ減の 3 億 8,400 万ユーロ、2020 年度第 4 四半期に比べ 5 億ユーロ減）。対前年同期でのリスク関連費用の減少の 56%は正常債権（ステージ 1 及び 2）に対する引当の減少によります。2021 年度第 1 四半期の費用 3 億 8,400 万ユーロは、正常債権（ステージ 1 及び 2）に対する引当 9,000 万ユーロ（これに対して 2020 年度第 1 四半期は 2 億 2,300 万ユーロの引当、2020 年度第 4 四半期は 1 億 9,300 万ユーロの引当）、及び、確認されているリスク（ステージ 3）に対する引当 2 億 8,300 万ユーロ（これに対して 2020 年度第 1 四半期は 3 億 8,200 万ユーロの引当、2020 年度第 4 四半期は 2 億 9,100 万ユーロの引当）で構成されています。2021 年度第 1 四半期に、残高に対するリスク関連費用はローリング 4 四半期[48]で 56 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベース[49]で 37 ベーシス・ポイントでした。リスク関連費用の減少は、特にファイナンス事業と CA コンシューマー・ファイナンスで顕著であり、LCL と CA イタリアではこれらより小幅でした。LCL の 2021 年度第 1 四半期のリスク関連費用は 8,300 万ユーロ（2020 年度第 1 四半期に比べ 17.9%減、2020 年度第 4 四半期からは 7.5%減と小幅の減少）となり、残高に対するリスク関連費用の比率[48]は 27 ベーシス・ポイントとなりました（年率換算した四半期ベース[49]は 23 ベーシス・ポイント）。CA イタリアの 2021 年度第 1 四半期のリスク関連費用は 7,100 万ユーロ（2020 年度第 1 四半期に比べ 13.8%減、2020 年度第 4 四半期からは 36.8%減）となり、残高に対するリスク関連費用の比率[48]は 89 ベーシス・ポイントとなりました（年率換算した四半期ベース[49]は 60 ベーシス・ポイント）。CA コンシューマー・ファイナンスのリスク関連費用は 2021 年度第 1 四半期に 1 億 1,400 万ユーロとなり 2020 年度第 1 四半期に比べ 30.4%減少、2020 年度第 4 四半期からは 11.0 減少し、残高に対するリスク関連費用の比率[48]は 167 ベーシス・ポイントとなりました（年率換算した四半期ベース[49]は 133 ベーシス・ポイント）。最後に、ファイナンス事業では、当四半期のリスク関連費用は 8,500 万ユーロとなり、前年同期の 1 億 3,700 万ユーロ及び 2020 年度第 4 四半期の 1 億 2,100 万ユーロに対して、それぞれ 38.2%及び 30.0%の減少となりました。2021 年度第 1 四半期のリスク関連費用／残高[48]は、62 ベーシス・ポイント（当四半期の年換算ベース[49]は 31 ベーシス・ポイント）でした。

持分法適用会社の基礎利益に対する寄与は、8,700 万ユーロで、**3.5%**減少しました。2021 年度第 1 四半期、ビー・フォー・バンクはクレディ・アグリコル S.A.が参加し、持分所有を 50%に引き上げた資本増強を受けて、コーポレート・センター部門の下での持分法適用会社になりました。当四半期におけるビー・フォー・バンクの寄与は、マイナス 500 万ユーロでした。

---

[46] *ステージ 3 の残高を分母とし、ステージ 1、2 及び 3 で計上された引当金の合計を分子として計算した引当率*

[47] *楽観的なシナリオのウェイトを 10 ポイント引き下げ、それほど楽観的ではないシナリオのウェイトを 10 ポイント引き上げた場合、「将来を見越した中央」の予想信用損失（ECL）引当金は ECL 引当金合計の約 0.8%変動する結果となります。しかし、このようなウェイトの変更は、「将来を見越した各地」の調整がその影響を軽減する可能性があるため、必ずしも大きな影響を有するとは限りません。*

[48] *ローリング 4 四半期の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、過去 4 四半期のリスク関連費用を、当該 4 四半期の各期首時点の残高の平均で除して算出されています。*

[49] *年換算の残高に対するリスク関連費用（ベーシス・ポイント）は、当四半期のリスク関連費用を 4 倍し、当四半期の期首時点の残高で除して算出されています。*

2021 年度第 1 四半期の**他の資産に関する純利益**は 300 万ユーロで、これに対して 2020 年度第 1 四半期は 500 万ユーロでした。

この結果、非継続事業と非支配持分控除前の税引前基礎利益[50]は 42.9%増加して 15 億 1,100 万ユーロとなりました。**基礎実効税率**は **26.9%**で、2020 年度第 1 四半期に比べ 1.8 ポイント上昇しました。その結果、基礎税金費用は 57.5%増加して 3 億 8,400 万ユーロとなりました。**これにより、非支配持分控除前の基礎純利益は 38.5%増加しました。**

2021 年度第 1 四半期に、**非支配持分**は 19.9%増加して 1 億 9,400 万ユーロとなりました。これは、保険において 1 株当たり利益に影響を与えずに劣後債務（RT1）のクーポンの認識方法を変更したことによるものです。

当四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、前年同期比 43.1%増の **9 億 3,200 万ユーロ**でした。

当四半期の **1 株当たり基礎的利益**は、前年同期と比べ **63.6%増加して、0.28 ユーロ**に達しました。

[50] *特殊要因の詳細については、付属資料を参照のこと。*

クレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の業績分析活動

アセット・ギャザリング部門

貯蓄/退職保険部門では、クレディ・アグリコル・アシュアランスがフランス内外で商業開発と多角化を進め、収益は 2020 年度第 1 四半期と比較して 23.9%増加しました。イタリアの総流入額は 18.7%増加し、総流入額に占めるユニット・リンク型の構成比は 40.7%となりました。この結果、2021 年度第 1 四半期の純流入額は、ユーロ資金がわずかな流出（マイナス 3 億ユーロ）となったにもかかわらず、プラス（17 億ユーロ）となりました。ユニット・リンク型の純流入額は 20 億ユーロ（2020 年度第 1 四半期比 15.2%増）となりました。

資産残高（貯蓄、退職保険、死亡・高度障害保険）は 3,123 億ユーロとなり、2020 年 3 月から 4.6%増加しました。残高に占めるユニット・リンク型契約の比率は 25.1%と過去最高となり、2020 年 3 月に比べ 3.7 ポイント上昇しました。

損害保険事業では、2021 年度第 1 四半期の事業は好調で、保険料収入は 2020 年度第 1 四半期から 6.4%増加しました。成長の原動力となったのは伝統的な業務（住宅、法的保護、個人傷害保険、自動車）であり、法人向け商品提供（企業の損害保険及び専門家のマルチリスク）の開始と、イタリアの損害保険子会社の成長（保険料収入は 2020 年度第 1 四半期に比べ 19%増加）も寄与しました。

この結果、クレディ・アグリコル・アシュアランスのポートフォリオにおける損害保険契約件数は、2021 年 3 月末で 1,480 万件近くまで増加し、前年同期に比べ 4.2%増加しました。個人客[51]のクロスセル・レートが地域銀行のネットワーク（2021 年 3 月末で 42.1%となり、2020 年 3 月から 1.1 ポイント上昇）、LCL ネットワーク（2021 年 3 月末で 25.9%となり、2020 年 3 月から 0.7 ポイント上昇）及び CA イタリア（2021 年 3 月末で 17.7%となり、2020 年 3 月から 2.0 ポイント上昇）で引き続き上昇しました。コンバインドレシオは、前年同期からマイナス 1.1 ポイントと小幅の悪化の 96.1%と引き続き抑制されています。

死亡・高度障害、債権者及び団体保険では、当四半期の保険料収入は 3 事業部門からのプラスの寄与により、2020 年度第 1 四半期から 5.0%増加[52]して 13 億ユーロとなりました。

資産運用部門（アムンディ）は、個人向けの純流入における力強いモメンタムにより、当四半期の活動において力強い成長を記録しました。しかし、トレジャリー商品及び中国の JV における低マージン商品では流出となりました。その結果、JV を除いた個人セグメント（プラス 78 億ユーロ）及び機関・企業投資家セグメント（プラス 20 億ユーロ）が原動力となり、JV を除いた MLT 資金の純流入はプラス 98 億ユーロとなりました。トレジャリー商品の純流出額はマイナス 186 億ユーロで、これは 2020 年下半期における非常に高い流入額（プラス 395 億ユーロ）を受けてのもので、主に機関投資家や企業によるものでした。ジョイント・ベンチャーの純流出額は合計で 40 億ユーロでした。中国におけるチャネル・ビジネスの低マージン商品に関連した純流出（マイナス 70 億ユーロ）調整後では、MLT JV の純流入は活発で、特にインドにおいて顕著でした。SBI FM のマーケット・シェアは、2021 年 3 月末現在で 16%近くに達しました。

運用資産は 2020 年 3 月から 14.9%増加して、2021 年 3 月末現在で 1 兆 7,550 億ユーロとなりました。運用資産にはサバデル AM が含まれ、その運用資産 207 億ユーロが 2020 年 7 月 1 日よりアムンディの連結範囲に組み込まれています。運用資産に対する市場及び為替の影響は、2020 年 12 月末と比べプラス 393 億ユーロでした。

---

[51] *クロスセル・レート：最低でも 1 件の保険商品を保有するバンキング部門の個人客の比率（パシフィカの試算値）。対象範囲：自動車、住宅、健康、生命・傷害、法的保護保険及び全ての携帯電話*

[52] *会計処理方法の変更調整後の増加で、調整分を除くと、成長率は、損害保険で 6.6%、死亡・高度障害、債権者及び団体保険で、当四半期の前年同期比がプラス 16.7%。*

また、当四半期において、特にパッシブ/ETF 運用分野でのオーガニック成長を加速させるために、リクソーの買収についての独占的な交渉を開始しました（上記参照）。

ウェルス・マネジメントでは、運用資産が 7.3%増加し、2021 年 3 月末時点で合計 1,880 億ユーロとなりました。

アセット・ギャザリング（AG）部門では、全ての事業の貢献による成長が原動力となり、当第 1 四半期の基礎純利益グループ帰属分は前年同期比 43.7%増の 5 億 1,200 万ユーロとなりました。同部門は、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 45%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 29%に寄与しました。

2021 年 3 月 31 日現在でアセット・ギャザリング部門に配分された自己資本は 110 億ユーロで、この内訳は、保険が 94 億ユーロ、資産運用が 11 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 5 億ユーロでした。同部門のリスク・ウェイト資産は 474 億ユーロで、この内訳は、保険が 312 億ユーロ、資産運用が 112 億ユーロ、ウェルス・マネジメントが 50 億ユーロでした。

保険

2021 年度第 1 四半期の基盤収益は 6 億 2,500 万ユーロで、資産の増加、事業の良好なモメンタム、プラスの市場効果により前年同期比 22.2%増となりました。保険収入はまた、2021 年 3 月 1 日に実施されたスイッチ・メカニズムの 15%の解消による恩恵を 1 ヶ月にわたり受けました。基礎費用は、2021 年度第 1 四半期に前年同期に比べ 5.7%減少しました。この変動の内訳は、活動を成長させるための投資に関連する事業の費用が 3.1%増加したことと、2020 年に活動に適用された C3S 企業の社会拠出金が減少したことによります。この結果、2021 年度第 1 四半期の基礎営業総利益は、48.5%増加して 3 億 9,100 万ユーロとなりました。2021 年度第 1 四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 11.1 ポイント改善され、37.4%となりました。収益の増加に伴い、税金費用は 48.9%増加して 7,700 万ユーロとなりました。この結果、基礎純利益は前年度第 1 四半期に比べ 53.8%増の 3 億 1,500 万ユーロとなり、また、純利益グループ帰属分の増加はこれよりも低率の 45.0%となりました。これは主に、RT 1 劣後債券のクーポン利息に使用された認識方法の変更に伴う非支配持分によります（1,900 万ユーロの未払利息、1 株当たり利益には影響なし）。

資産運用

当四半期の基礎収益は、前年同期比 26.7%増の 7 億 5,300 万ユーロとなりました。2021 年度第 1 四半期の資産運用収益（純額）は、市場の回復により前年同期比 15.1%増となりました。資産運用収益（純額）及び手数料収入は 5.1%増加し、過去最高水準の 1 億 1,100 万ユーロとなりました。加えて、2021 年度第 1 四半期は連結の範囲のプラス影響の恩恵を受けました（サバデル AM 及びファンド・チャネル、収益影響プラス 1,700 万ユーロ）。SRF を除いた基礎費用は 13.2%増の 3 億 7,900 万ユーロとなりましたが、これは、サバデル AM、ファンド・チャネル及び新規設立のアムンディ・バンク・オブ・チャイナ WM による連結範囲の影響 1,200 万ユーロ、並びに営業総利益の増加に連動した変動報酬の増加によります。基礎営業総利益は 44.4%増と大幅に増加し、SRF を除いた基礎コスト比率は、前年同期に比べ 6 ポイント低下して 50.3%となりました。持分法適用会社の寄与は、ファンド・チャンネルの全部連結への変更による範囲の影響がマイナス 2,000 万ユーロに達しましたが、特にアジアにおけるアムンディのジョイント・ベンチャーの寄与により、2020 年度第 1 四半期に比べ 28.3%増加し、1,800 万ユーロとなりました。基礎税金費用は、40.4%増加して 9,600 万ユーロとなりました。最後に、基礎純利益グループ帰属分は、54.4%増の 1 億 9,600 万ユーロでした。

ウェルス・マネジメント

基盤収益は 2 億 600 万ユーロで、2020 年度第 1 四半期に比べ 3.9%減少しました。この変動は、2020 年度第 4 四半期より売却目的保有に分類変更された米国の事業体による連結範囲の影響によるものです。SRF を除く基礎費用は、節減計画及び連結の範囲影響により 1 億 7,100 万ユーロに減少しました（7.8%減）。この結果、2021 年度第 1 四半期の基礎営業総利益は前年同期比 26.7%増と大幅に増加して 3,300 万ユーロとなり、SRF を除いた基礎コスト比率は著しく改善して 3.5 ポイント減の 86.3%となりました。リスク関連費用は 500 万ユーロとなりました。最後に、当四半期の基礎純利益グループ帰属分は 21.2%減の 2,000 万ユーロでした。尚、当四半期における 500 万ユーロの特殊要因の認識は純利益グループ帰属分に影響を及ぼしました。これらの損失は、売却目的保有のマイアミ及びブラジルの事業体の寄与に関連しています。

大口顧客部門

2021 年度第 1 四半期の**法人営業及び投資銀行部門**の全般的な活動は好調で、**基礎収益**は 2020 年度第 1 四半期に対して力強い成長を示しました（13.6%増の 13 億 6,600 万ユーロ）。**資本市場及び投資銀行部門**は、CVA について 2020 年度第 1 四半期よりも良好な金利環境及び FICC 業務の好調な業績に支えられ、非常に力強い実績を示しました（2020 年度第 1 四半期に比べ 17.4%の増収の 7 億 800 万ユーロ）。当四半期の FICC の収益は 13.5%増加し、第 1 四半期としては 2016 年以降で最高となりました。FICC の活動は、商品ラインの補完的構成による恩恵を受けました。FICC では、ノン・リニア業務、債券発行市場及び証券化が、昨年の線形業務の実績が好調であった影響を吸収しました。正常化が進む市場において、CACIB は債券発行における**主導的立場**（フランス社債で第 1 位[53]）を固めました。規制上の VaR は、**慎重なリスク管理モデル**に沿って**低い水準が維持**されました（2021 年 3 月 31 日現在は 630 万ユーロで、これに対して 2020 年 12 月 31 日現在は 920 万ユーロ、規制上の VaR の平均は、当第 1 四半期が 1,230 万ユーロで、これに対して 2020 年度第 4 四半期は 1,090 万ユーロ）。**ファイナンス事業**では、2021 年度第 1 四半期の基礎収益が、前年同期に比べ力強い成長（9.8%増収）を遂げ 6 億 5,900 万ユーロとなりました。これは主に好調な商業銀行業務（10.7%増収の 3 億 4,700 万ユーロ、外国為替の影響を除いた場合は 16.7%増収）に支えられたもので、シンジケート・ローン（フランスで第 2 位[54]、EMEA で第 4 位）が引き続き好調に推移し、EMEA シンジケート・ローンが 2021 年度第 1 四半期に 90 億ユーロに達し、前年同期比 51%増加したことに加えてマージンも底堅かったこと、また、ストラクチャード・ファイナンス（8.8%増収の 3 億 1,200 万ユーロ、外国為替の影響を除いた場合は 12.6%増収）もほとんどの商品ラインで良好な実績（グローバル・プロジェクト・ファイナンスで第 3 位[55]）を示したことから引き好調に推移しました。リボルビング融資枠（RCF）の利用率は、2020 年 4 月末に最高の 32%に達した後に、2021 年 3 月は 19%と危機前の水準に戻りました。

最後に、**資産運用サービス**（CACEIS）の当四半期の活動は良好な水準でした。**カストディー資産**は力強い勢いを示し、2021 年 3 月末で 4 兆 3,000 億ユーロとなり、2020 年 3 月末に比べて 17%増加しました。また、**資産管理**も増加し、2021 年 3 月末では前年同期比 21%増の 2 兆 2,210 億ユーロとなりました。この成長は、ボリューム効果と市場効果の両方によるものです。

---

[53] *出典：ディールロジック 2021 年第 1 四半期、ユーロ表示*

[54] *出典：トムソン・フィナンシャル 2021 年第 1 四半期*

[55] *出典：リフィニティブ（Global Project Finance Loans Bookrunners）*

2021 年度第 1 四半期の大口顧客部門の**基礎収益**は 16 億 6,400 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期に比べて 12.2%増加しました。営業総利益は 5.6%増加しました。SRF を除く総営業利益の増加率はさらに大きく、2020 年度第 1 四半期から 25.1%増加しました。この力強い成長は、全ての事業分野におけるダイナミックかつバランスのとれたモメンタムに加えて、SRF を除く経費の抑制により 8.8 ポイントのプラスの乖離効果を生み出したことによります。大口顧客部門のリスク関連費用は 6,700 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期に比べ 57.8%減、2020 年度第 4 四半期に比べ 39.2%減となりました。これは、ファイナンス事業において、1 年にわたって正常債権に対して高水準の引当（2020 年度にはファイナンス事業のステージ 1 及びステージ 2 の残高に対して 3 億 5,400 万ユーロの引当）が行われた後に、ステージ 1 及びステージ 2 の債権に対する引当が安定化して横這いとなったことに加えて、不良債権処理に関連して、ファイナンス事業のステージ 3 に対するリスク関連費用が減少（2021 年度第 1 四半期の 1,400 万ユーロに対して、2020 年度第 1 四半期は 8,100 万ユーロ）したことによります。

同部門は、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の**基礎純利益グループ帰属分**の 24%、コーポレート・センターを除いた**基礎収益**の 30%に寄与しました。

2021 年 3 月 31 日現在、同部門に**配分された資本**は合計 124 億ユーロで、**リスク・ウェイト資産**は 1,305 億ユーロでした。

法人営業及び投資銀行部門

2021 年度第 1 四半期に、法人営業及び投資銀行部門の基礎収益は 2020 年度第 1 四半期に比べ 13.6%増加して 13 億 6,600 万ユーロとなり、CACIB のビジネスモデルの底堅さ及びその活動の補完の適合性を再び立証しました。

当四半期の SRF を除く基礎営業費用は 2020 年度第 1 四半期に比べ 3.1%増加して 6 億 8,900 万ユーロとなりましたが、これは営業活動が好調であったことに伴う変動報酬に対する引当の増加に関連しています。しかし、乖離効果は 2020 年度第 1 四半期に比べ 10.5%増と大幅なプラスを維持し、コスト比率（SRF を除く）も 2020 年度第 1 四半期に比べて 5.1 ポイント改善の 50.5%と非常に低い水準を維持しました。SRF の費用は 2 億 9,400 万ユーロで、2020 年度第 1 四半期[56]に比べて 64.8%増加しました。営業総利益は 7.7%増加して 3 億 8,300 万ユーロとなりました。SRF を除く営業総利益は、大幅な増益となりました（2020 年度第 1 四半期に比べ 26.8%増）。リスク関連費用は、2020 年度第 1 四半期に比べ 54.3%減と大幅に減少しました。これはファイナンス事業の 8,500 万ユーロによるものであり、主にステージ 1 及び 2 の残高に対するリスク関連費用（7,100 万ユーロ）で構成されています。ステージ 3 に対するリスク関連費用は、2020 年度第 1 四半期に比べ著しく減少しました（2020 年度第 1 四半期の 8,100 万ユーロから 2021 年度第 1 四半期の 1,400 万ユーロ）。この一時的な減少は、2021 年度第 1 四半期における不良債権処理によるものでした。全体で、2021 年度第 1 四半期の基礎純利益グループ帰属分は、2020 年度第 1 四半期と比較して 37.6%増の 2 億 5,500 万ユーロとなりました。

2021 年 3 月末のリスク・ウェイト資産は、2020 年 12 月末比 54 億ユーロ増加し、1,204 億ユーロとなりました。この増加は主に、内部モデルの対象を絞ったレビュー（TRIM）の影響（29 億ユーロ増）、一部のエクスポージャーの格付引き下げの影響（12 億ユーロ増）、及び為替の影響（18 億ユーロ増）によります。

[56] *2020 年度第 2 四半期に、追加的な SRF 拠出金が計上されました*

資産運用サービス

当四半期の基礎収益は、5.8%増収の 2 億 9,800 万ユーロでした。SRF を除く基礎営業費用は、投資の影響により 3.9%増の 2 億 2,000 万ユーロとなりましたが、この投資の一部は新規の大口顧客に関連するものでした。SRF は 3,400 万ユーロで、2020 年度第 1 四半期に比べて 60.5%増加しました。SRF を除く基礎営業総利益は 11.7%増の 7,700 万ユーロとなりましたが、SRF を含む基礎営業利益は 9.8%減の 4,300 万ユーロとなりました。2021 年度第 1 四半期の基礎コスト比率は、SRF を除き前年同期比 1.4 ポイント改善され、74.0%となりました。基礎純利益は 0.2%増の 2,300 万ユーロとなりました。サンタンデールの非支配持分 1,100 万ユーロ控除後の、当事業部門の基礎純利益グループ帰属分への貢献は、ほぼ横這い（前年同期比 0.4%減）の 2,300 万ユーロとなりました。SRF を除いた基礎純利益グループ帰属分は、21.6%増と良好な伸びを示しました。

専門金融サービス部門

専門金融サービス部門の営業活動は、全ての事業分野における活発な組成によって支えられました。CA コンシューマー・ファイナンスの 2021 年度第 1 四半期のローン組成額は、非常に高水準であった 2020 年度第 4 四半期と比較して減少（マイナス 10.5%[57]）しましたが、98 億ユーロ（2020 年度第 1 四半期に比べ 4.2%増 [57]）に達し、2021 年 3 月には 2019 年の最高値をほぼ回復しました。この要因は、中国における力強い業績（GAC ソフィンコで 2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ 40.6%増）、及びフランスにおける好調な営業活動（2021 年度第 1 四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ 5.9%増）でした。分割返済対象ローンの組成マージンは、2020 年末の自動車ディーラーにおける在庫処分後に、自動車ジョイント・ベンチャーに牽引されて、当四半期に 0.1 ポイント上昇しました。**運用資産は前年同期比ではほぼ横ばい**でしたが、2020 年度第 4 四半期対比では今回は在庫補充により 6 億ユーロ増加（0.6%増加）し、914 億ユーロに達しました。CAL&F では、**新規リース契約**は、特にポーランドにおける好調な業績の貢献により安定的に推移し、2021 年度第 1 四半期には 13 億ユーロとなりました。これは 2020 年度第 1 四半期と同水準でしたが、非常に高水準で第 2 次ロックダウンにより 2020 年度第 2 四半期から延期されていた組成による好影響を受けていた 2020 年度第 4 四半期対比では減少しました（26.9%減）。**連結貸付総額**は、フランス及び国外では特にポーランドが原動力となり、前年同期比で増加しました（2021 年 3 月末で 2020 年 3 月に比べ 4.2%増）。2021 年度第 1 四半期のファクタリング事業は非常に好調で、**ファクタリング収益**は 2020 年度第 1 四半期と比較して、フランス及び国外のドイツにおいて、6.3%増加しました。

特に CA コンシューマー・ファイナンスにおける底堅い収益と非常に良好な費用統制の貢献により、**専門金融サービス部門**の 2021 年度第 1 四半期の実績は力強い成長を示しました。**営業総利益**は増加（2020 年度第 1 四半期に比べ 4.5%増 [57]）し、SRF を除いた**基礎コスト比率**は 52.0%に改善されました（2020 年度第 1 四半期に比べ 1.5 ポイント低下 [576057]）。**リスク関連費用**は 2020 年度第 1 四半期と比較して 31.0%減 [57] と著しく減少しました。その結果、2021 年度第 1 四半期には、当事業部門の**基礎純利益グループ帰属分**は 1 億 5,800 万ユーロに達し、2020 年度第 1 四半期に比べ 40.6%増加 [57] しました。

同部門は、2021 年度第 1 四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 14%、収益の 12%に寄与しました。

[57] *CA コンシューマー・ファイナンス NL を除く*

消費者金融

2021 年度第 1 四半期、CA コンシューマー・ファイナンスの**基礎収益**は 5 億 200 万ユーロに達し、2020 年度第 1 四半期とほぼ同水準となりましたが（0.1%増 [60]）、これは、平均連結残高が安定して推移 [60] したことによります。**営業総利益**は、2020 年度第 1 四半期に比べ増加し（2.3%増 [60]）、**SRF を除いた基礎コスト比率**は 0.7 ポイント改善 [60] して 51.4%となりました。**持分法適用会社の寄与**は安定的に推移し、2021 年度第 1 四半期には 7,400 万ユーロに達しました（2020 年度第 1 四半期比 3.2%増）。**リスク関連費用**は、直前四半期及び 2020 年度第 1 四半期に比べ、それぞれ 11%減及び 28.1%減 60 と大幅に減少しました。**残高に対するリスク関連費用**（ローリング 4 四半期のベーシス・ポイント）[58] は 167 ベーシス・ポイント、年換算の四半期ベースの残高に対するリスク関連費用[59] は 133 ベーシス・ポイントでした。**不良債権比率**は 6.6%となり、2020 年 12 月に比べ 0.3 ポイント低下しました。全体として、2021 年度第 1 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、2020 年度第 1 四半期と比較して 34.3%増[60] の 1 億 3,400 万ユーロとなりました。

当第 1 四半期の CA コンシューマー・ファイナンス**事業の純利益グループ帰属分への寄与**は 12%でした。

リースとファクタリング

2021 年度第 1 四半期の CAL&F の基礎**収益**は 1 億 4,100 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期と比べて 10.0%増加しました。これはポーランドとフランスにおけるリース事業の好調によるものです。**SRF を除いた当四半期の基礎コスト比率は、前年同期比 4.6 ポイント改善され、53.8%**となりました。リスク関連費用は、直前四半期及び 2020 年度第 1 四半期に比べ、それぞれ 47.9%減及び 48.8%減と大幅に減少しました。CAL&F の 2021 年度第 1 四半期の**基礎純利益グループ帰属分**は、2020 年度第 1 四半期と比較して倍増の 2,400 万ユーロとなりました。

リテール・バンキング部門

クレディ・アグリコル S.A.の**リテール・バンキング部門**は、2021 年度第 1 四半期は依然として制約の影響下にあったものの、好調な業績を示しました。貸付残高は、LCL が 1,440 億ユーロ（前年同期比 9.6%増）、イタリアが 465 億ユーロ（前年同期比 5.2%増）と高水準を維持しました。2021 年 12 月 31 日現在、国家保証融資の残高は LCL が 82 億ユーロ、CA イタリアが 29 億ユーロとなりました。この結果、国家保証融資を除いた貸付残高は、LCL でスモールビジネス向け貸付（11.4%増）が原動力となり前年同期比 3.4%増加し、CA イタリアでも住宅ローンで好調な実績を示して残高が前年同期比で 6.3%増となり、マーケット・シェアは前年同期比で 7 ポイント増の 9.21%となりました。フランスでは、LCL の住宅ローンの条件再交渉の水準は残高で 2 億ユーロと 2020 年度第 4 四半期と同水準で、2020 年度第 1 四半期の 5 億ユーロを下回り、最高時の 2016 年度第 4 四半期の 52 億ユーロを大幅に下回っています。最後に、イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、2020 年 3 月末からのローンの成長は 2021 年 3 月末現在で 3.1%に達し、為替の影響を除いた場合は 3.6%となりました。これはウクライナでは減少（7%減 [61]）したものの、特にエジプト（6%増[61]）、ポーランド（4%増 [61]）及びモロッコ（1%増 [61]）が原動力となったことによります。LCL のオン・バランスシート預金残高は、家計の予防的貯蓄や企業の流動性を促進するために供与された国家保証融資の一部の預金が増加したことに伴い、前年同期比 11.9%増加しました。このような状況を背景に、要求払預金残高は、個人顧客（前年同期比 14%増）及び SME、スモールビジネス・小企業顧客（前年同期比 49%増）の両方で増加しました。CA イタリアでは、オン・バランスシート預金は前年同期比で増加（5.4%増）しましたが、前四半期には、資源を最適化するために講じた営業上の措置を反映して減少しました。オフ・バランスシートの貯蓄は、生命保険の 3.2%増を含め、LCL で増加しました（前年同期比 7.4%増）。CA イタリアの管理預金も前年同期比 16.9%増と大幅に増加しましたが、これは新規顧客獲得と貯蓄の方向を投資商品に導いたことによるもので、いずれもネットワークの大

---

[58] *過去 4 四半期のリスク関連費用の、各 4 四半期の平均期首残高に対する割合*

[59] *当該四半期の期首残高に対する当該四半期のリスク関連費用の割合に 4 を乗じた値*

[60] *CA コンシューマー・ファイナンス NL を除く*

[61] *外国為替の影響を除く。*

規模な動員を反映しています。最後に、顧客資産はイタリアを除いた国際リテール・バンキング全体で 12.4%増加し、為替の影響を除外した場合は 13.3%増加しました。これはウクライナ（21%増 [61]）、ポーランド（15%増 [61]）、モロッコ（9%増 [61]）及びエジプト（8%増 [61]）が原動力となったことによります。その結果、2021 年 3 月 31 日現在、イタリアを除く国際リテール・バンキングでは、預金残高が貸付残高を 29 億ユーロ超過しました。自動車保険、マルチリスク住宅保険、健康保険、法的保険又は傷害保険におけるクロスセル・レートは、LCL が 25.9%に（2020 年 3 月末対比 0.7 ポイント上昇）、CA イタリアが 17.7%に（同 2.0 ポイント上昇）、それぞれ上昇しました。

フランスのリテール・バンキング

2021 年度第 1 四半期の基礎収益は 9 億 500 万ユーロとなり、前年同期に比べ 1.9%増加しました。この増加は、良好な流動性調達条件に支えられた金利マージン（純額）（4%増）によるものでした。手数料収入は、損害保険の好調な実績が、衛生危機の影響を受けた電子決済事業の落ち込みを相殺したことにより、ほぼ同水準（0.1%減）となりました。2021 年度第 1 四半期の SRF を除く基礎費用は、特にカスタマー・ジャーニー（提供商品のペーパーレス化、オンライン債権者保険、電子署名）のデジタル化への投資が継続する中で、1.9%減少して 5 億 7,400 万ユーロとなりました。こうした状況を背景に、SRF を除いた基礎コスト比率は、2.4 ポイント改善して 63.4%となりました。基礎営業総利益は、2020 年度第 1 四半期に比べ 1.3%増加して、2 億 7,200 万ユーロとなりました。SRF 調整後の基礎営業総利益は前年同期比 9.1%増と大幅に増加しました。リスク関連費用は 2020 年度第 1 四半期対比では減少しましたが（17.9%減の 8,300 万ユーロ）、過去 3 四半期との比較では横這いでした。全体として、2021 年度第 1 四半期の基礎純利益グループ帰属分は、2020 年度第 1 四半期と比較して 12.1%増の 1 億 1,600 万ユーロとなりました。

不良債権比率は、1.5%（2020 年度第 4 四半期から横這い）で低水準を維持し、不良債権引当率は 86.0%（2020 年度第 4 四半期と比べ 0.2 ポイント低下）と高い水準を維持しています。

国際リテール・バンキング

国際リテール・バンキングの収益は、イタリアにおける好調な営業活動により+3.4%増加し、2021 年度第 1 四半期には 6 億 9,300 万ユーロとなりました。2021 年度第 1 四半期の基礎費用は 1.5%減少して 4 億 1,500 万ユーロとなりました。この結果、基礎営業総利益は 2020 年度第 1 四半期と比較して 10.6%増の 2 億 5,800 万ユーロと大幅に増加しました。リスク関連費用は当四半期に 13.5%減少して 1 億ユーロとなりました。全体として、国際リテール・バンキングの純利益グループ帰属分は、前年同期比 42.2%増の 7,900 万ユーロとなりました。

イタリア

CA イタリアの 2021 年度第 1 四半期の収益は、2020 年度第 1 四半期と比較して 9.8%増加し、4 億 8,800 万ユーロとなりました。これには、有価証券ポートフォリオの 2021 年度第 1 四半期のプラスの損益 2,400 万ユーロが含まれ、このポートフォリオ損益を除いた場合は 2020 年度第 1 四半期に比べ 4.5%の増収となり、これは、管理貯蓄及び保険事業からの手数料収入の実績が好調であったことによります。ポートフォリオ活動を除いた金利マージン（純額）は、残高の増加にもかかわらず金利低下の影響を受けました。2021 年度第 1 四半期の SRF への拠出金を除いた基礎費用は非常に良好な抑制により、2020 年度第 1 四半期と比べほぼ同水準を維持しました（0.4%増の 2 億 8,000 万ユーロ）。この結果、SRF を除いた基礎コスト比率は大幅に改善され、2020 年度第 1 四半期に比べ 5.4 ポイント低下して 57.3%となりました。2021 年度第 1 四半期のリスク関連費用は、2020 年度第 1 四半期に比べ 13.6%減少して 7,100 万ユーロとなりました。残高との関連では、主に個人の支払猶予が徐々に終了する状況下で、年換算の四半期ベースで 60 ベーシス・ポイント、ローリング 4 四半期ベースで 89 ベーシス・ポイントと抑制された水準となっています。CA イタリアは、対象を絞り、個別化された一連のソリューションを、影響を受けた顧客向けに導入しています。不良債権比率は、2021 年 3 月末で 6.2%となり、これに対して 2020 年 12 月末では 6.7%でした。不良債

権引当率も 2021 年 3 月末で 61.5%となり、2020 年 12 月末に比べ 0.8 ポイント上昇しました。

イタリアのクレディ・アグリコル・グループ

2021 年度第 1 四半期の当グループのイタリアにおける利益は、当グループのイタリアにおける子会社の営業利益の増加及びリスク関連費用の減少により、2020 年度第 1 四半期に比べ 58%増加し、1 億 7,300 万ユーロとなりました。

国際リテール・バンキング（イタリアを除く）

2021 年度第 1 四半期の基礎収益は、特に金利マージン（純額）の影響により 2020 年度第 1 四半期に比べ 9.1%減少して 2 億 600 万ユーロとなりました。これは、エジプト、ポーランド、ウクライナ及びモロッコにおける 2020 年度第 2 四半期の基準金利の低下の影響を受けたことによりますが、2020 年度第 3 四半期以降は徐々に回復しています。基礎費用も減少（2020 年度第 1 四半期に比べ 5.2%減）しましたが、イタリアを除く国際リテール・バンキングの基礎コスト比率（SRF を除く）は前年同期比 2.7 ポイント悪化して 66.0%となりました。この結果、基礎営業総利益は 15.9%減少しました。しかし、リスク関連費用は 2020 年度第 1 四半期と比較して 13.2%減少して 2,900 万ユーロとなりました。不良債権比率は、2021 年 3 月末で 6.9%と、2020 年 12 月末比 0.4 ポイント増加しましたが、低水準を維持しており、不良債権引当率は 104%となり、2020 年 12 月末から 5 ポイント低下しました。基礎純利益グループ帰属分は 1,900 万ユーロとなり、13.0%減少しました。

国別：

- CA ポーランド[62]：2021 年度第 1 四半期の純利益はプラスとなりました。2021 年 3 月末の不良債権比率は、新デフォルト定義の適用により 2020 年 12 月末比上昇して 8.0%となり、2021 年 3 月末の不良債権引当率は 102%となりました。
- CA エジプト[62]：当四半期の営業総利益は、2020 年度第 1 四半期と比較して横這いでした。不良債権比率は 3.5%と低水準で推移し、不良債権引当率は高水準の 154%でした。
- CA ウクライナ[62]：営業総利益は、ネットワーク投資に関連して 2.9%増加した費用の影響を受けて、2020 年度第 1 四半期に比べ 5.0%減と限定的な減益となりました。不良債権比率は 1.5%で低水準を維持し、不良債権引当率は 386%と高水準でした。
- クレディ・デュ・モロッコ[62]：当四半期の収益は依然として困難な経済環境の中で抑えられた減収（2020 年度第 1 四半期に比べ 1.8%減）となりました。不良債権引当率は 94%で、2020 年 12 月末とほぼ同水準となりました。

リテール・バンキング部門全体では、当四半期におけるクレディ・アグリコル S.A.の中核事業（コーポレート・センター部門を除く）の基礎純利益グループ帰属分の 17%、コーポレート・センターを除いた基礎収益の 29%に寄与しました。

[62] *外国為替の影響を除く。*

2021 年 3 月 31 日現在、この部門に配分された資本は 88 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 49 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 39 億ユーロでした。リスク・ウェイト資産は 922 億ユーロで、内訳はフランスのリテール・バンキングが 512 億ユーロ、国際リテール・バンキングが 409 億ユーロでした。

コーポレート・センター

2021 年度第 1 四半期のコーポレート・センターの純利益グループ帰属分は、マイナス 2 億 1,000 万ユーロとなり、前年同期比 16%減少しました。コーポレート・センターのマイナス寄与に関する分析では、「構造的」寄与（マイナス 2 億 4,700 万ユーロ）と他の項目（プラス 3,600 万ユーロ）に注目しました。

「構造的」部分は 2020 年度第 1 四半期に比べ 4,500 万ユーロ改善されましたが、これは 3 種類の事業から構成されています。

- クレディ・アグリコル S.A.が保有するコーポレート・センターの事業と役割。当第 1 四半期における寄与はマイナス 2 億 6,000 万ユーロとなり、前年同期と比較して 3,300 万ユーロ改善されましたが、これは流動性調達コストの引き続いての低下及び TLTRO III に関連した一時的な利益によります。
- CACIF（プライベートエクイティ）や CA イモビリエなど、中核事業の一部ではない部門、及び 2021 年度第 1 四半期以降、増資後にクレディ・アグリコル S.A.が 50%所有し持分法を適用しているビー・フォー・バンク。これらの 2021 年度第 1 四半期の寄与はプラス 1,400 万ユーロとなり、2020 年度第 1 四半期のマイナス 200 万ユーロから増加しましたが、これは CACIF ファンドの再評価及び多数の M&A 取引の損益によります。当四半期におけるビー・フォー・バンクの寄与は、マイナス 600 万ユーロでした。
- 当グループのサポート機能：2021 年度第 1 四半期はマイナス 100 万ユーロで、前年同期から 400 万ユーロ減少しました。収益は横這い（特に CAPS）でしたが、持分法適用会社の寄与が減少しました。

「その他の項目」当四半期は 2020 年度第 1 四半期に比べ、7,500 万ユーロ減少しましたが、これは市場のボラティリティが大きく、プレディカ及びアムンディが負担したグループ内取引消去の影響についてのベース効果を生み出しました。

2021 年 3 月 31 日現在、この事業のリスク・ウェイト資産は 268 億ユーロでした。

*　　*
*

財務の健全性

クレディ・アグリコル・グループ

2021 年 3 月 31 日現在、段階適用の普通株式ティア 1（CET1）レシオは、2020 年 12 月末比 0.1 ポイントと僅かに上昇し、17.3%となりました。この結果、クレディ・アグリコル・グループは、CET1 レシオの水準と当グループの 8.9%という SREP 要件の間で、8.4 ポイント（2020 年 12 月 31 日時点では 8.3 ポイント）という大きなバッファーを達成しました。表示実績及び配当金の支払について調整した段階適用の CET1 レシオは、16.9%に達しました。全面適用ベースのレシオ、言い換えると、「緊急規制緩和」の一環として 2020 年度第 2 四半期に含まれていた IFRS 第 9 号の段階的適用の影響を除いた場合は、17.0%でした。当四半期に、CET1 レシオは表示利益の影響の恩恵を受け（プラス 31 ベーシス・ポイント）、リスク・ウェイト資産の変動によりマイナスの影響を受けました（マイナス 17 ベーシス・ポイント[63]）。リスク・ウェイト資産は、大口顧客部門（為替の影響を除き 28 億ユーロ増）及びリテール・バンキング部門（為替の影響を除き 10 億ユーロで、うち 13 億ユーロは地域銀行の増加）で増加しました。配当金及び AT1 のクーポン利息の分配は、クレディ・アグリコル・グループの CET1 にマイナス 7 ベーシス・ポイントの悪化影響を与えました。「手法及び規制の影響」項目は、CET1 にマイナスに作用しました（マイナス 10 ベーシス・ポイント、うち 9 ベーシス・ポイントは内部モデルの対象を絞った見直し（TRIM）に関連）。最後に、「M&A、OCI、その他」の項目は、バンコアの処分によるプラス影響（プラス 4 ベーシス・ポイント）及び OCI 準備金によるマイナス影響（期間中の金利上昇に関連したマイナス 4 ベーシス・ポイント）を含めてレシオにプラス 3 ベーシス・ポイントの影響を与えました。OCI 準備金の残高は 2021 年 3 月 31 日現在で 18 ベーシス・ポイントとなりました（これに対して 2020 年 12 月 31 日現在は 22 ベーシス・ポイント）。段階適用レバレッジ比率は 5.9%となり、2020 年 12 月末に比べ 0.2 ポイント低下しました（ECB エクスポージャー除外前は 5.4%で、これに対して 2020 年 12 月末は 5.6%）。2021 年 3 月 31 日現在、中央銀行へのエクスポージャー除外前の段階適用のティア 1 レシオは 18.3%、段階適用の総資本比率は 21.3%、そして四半期平均段階適用レバレッジ・レシオは 5.3%でした。

TLAC

金融安定理事会（FSB）は、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIBs）のベイルインと資本増強の能力の充分性評価を目的としたレシオの計算を定めています。この総損失吸収能力（TLAC）レシオは、破綻処理前及びその最中に G-SIBs がベイルインと資本増強の充分な能力を備えているかどうかを評価する手段を、破綻処理当局に提供します。これは、グローバルなシステム上重要な銀行（したがってクレディ・アグリコル・グループ）に適用されます。

損失を吸収する要素を構成するのは、エクイティ、劣後債、及び破綻処理当局がベイルインを適用することができる債券です。

TLAC レシオの要件は、CRR2 を介して EU 法に置き換えられ、2019 年 6 月 27 日より適用可能となりました。クレディ・アグリコル・グループは同日以降、常に以下の要件に従わなければなりません。

- リスク・ウェイト資産（RWA）の 16%を超える TLAC レシオと、EU 指令 CRD5 に従った総合資本バッファー要件（クレディ・アグリコル・グループの場合は 2.5%の資本保全バッファー、1%の G-SIB バッファー、及びカウンターシクリカル・バッファー）。総合資本バッファー要件を考慮すると、クレディ・アグリコル・グループは、19.5%超の TLAC レシオ（及びカウンターシクリカル・バッファー）に従う必要があります。
- レバレッジ・レシオ・エクスポージャー（LRE）の 6%超となる TLAC レシオ。

[63] *OCI 準備金による保険の持分法投資価値に対する影響、為替の影響、手法及び規制の影響並びに M&A の効果を含まないリスク・ウェイト資産の変動*

2022 年 1 月 1 日以降は、最低 TLAC 要件が、リスク・ウェイト資産の 18%プラス当該日時点の総合バッファー要件、及び 6.75%のレバレッジ・レシオ・エクスポージャーに引き上げられます。

2021 年 3 月 31 日時点の**クレディ・アグリコル・グループの TLAC レシオ**は、**RWA の 25.7%及びレバレッジ・レシオ・エクスポージャーの 8.3%でした（適格優先シニア債を除く）**[64]。リスク・ウェイト資産の比率として表される TLAC レシオは、当四半期に 20 ベーシス・ポイント増加しており、自己資本と適格債務の増加が RWA の増加を上回りました。レバレッジ・レシオに対する比率として表される TLAC レシオは、バランスシートの規模の力強い拡大に沿って、2020 年 12 月に比べ 15 ベーシス・ポイント低下しました。中央銀行エクスポージャーの中立化を考慮しない場合、レバレッジ・レシオ・エクスポージャーで示された TLAC レシオは 7.6%に達していました（これに対して 2020 年 12 月末は 7.7%）。これは RWA の 19.5%（CRR2/CRD5 に従い、2021 年 3 月 31 日現在でカウンターシクリカル・バッファー0.03%を加えなければなりません）及びレバレッジ・エクスポージャーの 6%のそれぞれを超過しています。

TLAC レシオの達成は、**2021 年のホールセール市場での 70 億ユーロ規模の TLAC 債券発行プログラム**によって支えられています。2021 年 3 月 31 日時点で 27 億ユーロ相当が市場で発行されました。TLAC レシオの計算で考慮されたクレディ・アグリコル・グループの非優先シニア債の金額は、242 億ユーロでした。

MREL

MREL（自己資本及び適格債務にかかわる最低要件）レシオは、欧州の「銀行再建・破綻処理指令」（BRRD）に定められています。この指令は、銀行危機に事前に対処し、金融の安定性を保護し、損失に対する納税者のリスクを軽減するために破綻処理当局に共通の手段と権限を与えることを目的として、EU 全域で銀行の破綻処理枠組みを確立するものです。「BRRD2」として知られている 2019 年 5 月 20 日付の指令(EU)2019/879 は BRRD を修正し、2020 年 12 月 21 日付オルドナンス 2020-1636 によってフランス法に置き換えられました。

MREL レシオは、破綻処理の際に損失を吸収するために要求される自己資本と適格債務バッファーに相当します。要求される最低水準は、破綻処理当局の決定によって定められ、各金融機関に通知され、その後は定期的に改訂されます。

2020 年に、クレディ・アグリコル・グループは、連結 MREL 要件の改訂及び新たな劣後 MREL 要件（通常、シニア債は TLAC 基準に沿って除外される）について通知を受けました。当グループはこの 2 つの要件を、通知時点ですでに満たしていました。この 2 つの要件は BRRD の下で水準調整され、欧州の規制枠組み（すなわち BRRD）の変更を含む次の通知まで適用されます。

BRRD の下で MREL レシオは、金融機関の負債総額と自己資本の（一定の慎重な調整後）比率（TLOF[65]）として、又はリスク・ウェイト資産（RWA）として表示される自己資本と適格債務の金額として計算されます。規制上の自己資本のほか、劣後債、非優先シニア債、及び特定の優先シニア債（満期まで 1 年以上のもの）は、MREL レシオの分子として適格です。

クレディ・アグリコル・グループの目標は、2022 年末までに RWA の 24～25%の劣後 MREL（適格優先シニア債を除く）を達成し、劣後 MREL を TLOF の 8%以上に維持することです。この水準にあれば、優先シニア債へのベイルイン適用前に（破綻処理当局の決定を条件に）単一破綻処理基金に対してリコースでき、優先シニア債の投資家を保護する新たなレイヤーを創出します。

---

[64] *クレディ・アグリコル・グループは、年次の破綻処理可能性評価の一環として、自己資本規制規則第 72b 条 3 項が認めている、2021 年の TLAC 規制の遵守に優先シニア債を使用する可能性を放棄することを選択しました。*

[65] *TLOF – デリバティブを相殺した、慎重な調整後のバランスシート上の負債総額及び自己資本*

2021 年 3 月 31 日現在、**クレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオ[66]は TLOF の約 10%となり、適格優先シニア債を除いた場合、このレシオは 8.3%となります。**リスク・ウェイト資産の比率で表示されるクレディ・アグリコル・グループの推定 MREL レシオは、2021 年 3 月末時点でおよそ 32%でした。**これは、適格優先シニア債を除くと 25.7%でした。**劣後 MREL に関する MTP 目標は 2020 年 9 月以降達成されています。

BRRD 2 の下では、破綻処理機関の裁量により、クレディ・アグリコル・グループの劣後レベルで MREL 要件を調整する下方調整の可能性があることから、期待される最も高い劣後要件は TLAC である。現在の TLAC レシオは 2021 年 3 月 31 日現在の要件を 6.2 ポイント上回っており、2022 年 1 月 1 日時点での予想要件 21.5%（プラス・カウンターシクリカル・バッファー）を 4.2 ポイント[67]上回っています。

最大分配可能額（MDA）トリガー

バーゼル規則を EU 法に置き換えることで（CRD）、配当、AT1 債券、変動報酬に適用される分配の抑制メカニズムが導入されました。最大分配可能額（MDA。銀行が分配に割り当てることができる最大額）の原則は、分配が総合バッファー要件を順守していないとなった場合に分配に制限を設けることを狙いとしています。

MDA トリガーまでの距離は、CET1 資本、ティア 1 資本、及び資本総額についての SREP 要件までのそれぞれの距離のうち最も短いものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2021 年 3 月 31 日時点で **MDA トリガーを 765 ベーシス・ポイント（CET1 資本の 430 億ユーロ）上回る**バッファーとなりました。

クレディ・アグリコル S.A.は、2021 年 3 月 31 日時点で **MDA トリガーを 481 ベーシス・ポイント（CET1 資本の 170 億ユーロ）上回るバッファー**となりました。

クレディ・アグリコル S.A.

2021 年 3 月末時点のクレディ・アグリコル S.A.は高水準のソルベンシーを維持し、段階適用の**普通株式ティア 1（CET1）レシオ**（すなわち、「緊急規制緩和」の一環として 2020 年度第 2 四半期に含まれていた IFRS 第 9 号の段階的適用の影響を含む）**は 12.7%となり、**2020 年 12 月末から 0.4 ポイント低下し、**SREP を 4.8 ポイント上回りました。**2020 年 12 月末からの低下には、スイッチ・メカニズムの 15%の追加解消によるマイナス 0.2 ポイントが含まれています。表示利益及び配当金支払の調整後では、CET1 レシオは 12.5%となりました。全面適用ベースのレシオは 12.5%でした。当四半期の CET1 レシオは、表示利益の影響が 31 ベーシス・ポイントのプラス影響を生み出した恩恵を受けました。配当金と AT1 のクーポン利息の支払は、CET1 を 17 ベーシス・ポイント引き下げました（このうち、マイナス 14 ベーシス・ポイントは、配当性向 50%の方針（2021 年 3 月末現在で 0.16 ユーロ）に基づく配当準備金に関連していました。リスク・ウェイト資産は CET1 にマイナス 20 ベーシス・ポイント[68]の下方影響を及ぼし、手法及び規制の影響はマイナス 12 ベーシス・ポイントの影響を及ぼしました（そのうちマイナス 11 ベーシス・ポイントは TRIM－内部モデルの対象を絞った見直しに関連しています）。このレシオには、特に OCI 準備金の影響に関連する「M&A、OCIE、その他」項目に対するマイナス 4 ベーシス・ポイントのマイナス影響が含まれています（このうち、マイナス 9 ベーシス・ポイントは当四半期中の金利の上昇に関連しています）。OCI 準備金の残高は 2021 年 3 月 31 日現在で 38 ベーシス・ポイントとなりました（これに対して 2020 年 12 月 31 日現在は 48 ベーシス・ポイント）。また、スイッチ・メカニズムを追加で 15%解消したことにより、レシオにマイナス 20 ベーシス・ポイントの影響が生じています。最後に、クレディ・アグリコル S.A.は、CET1 レシオの水準と 7.9%という SREP 要件の間で、4.8 ポイント（2020 年 12 月 31 日時点では 5.2 ポイント）という大きなバッファーを達成しました。段階適用レバレッジ比率は 2021 年 3

---

[66] *現行の要件に適用される BRRD に従って行われる計算。グループの全事業体が外部に発行した MREL 適格負債を含みます。*

[67] *2021 年 3 月 31 日現在で適用されるカウンターシクリカル・バッファーに基づく*

[68] *OCI 準備金による保険の持分法投資価値に対する影響、為替の影響、手法及び規制の影響、M&A 並びにスイッチ・メカニズムの 15%解消の影響を含まないリスク・ウェイト資産の変動*

月末現在で 4.6%となり、2020 年 12 月末に比べ 0.3 ポイント低下しました（ECB エクスポージャー中立化前は 4.0%で、これに対して 2020 年 12 月末は 4.2%）。当四半期中の段階適用の平均レバレッジ比率は、ECB エクスポージャーの中立化前で 3.9%、段階適用のティア 1 レシオは 14.5%、段階適用の総資本比率は 19.0%でした。

リスク・ウェイト資産は 2021 年 3 月末時点で 3,480 億ユーロとなり、2020 年 12 月末と比較して増加しました（3.7%増）。事業部門の寄与は、プラス 61 億ユーロ（うち外国為替影響額プラス 19 億ユーロ）となりました。これは、大口顧客部門（為替影響を除き 27 億ユーロ増）における寄与の増加によります。リテール・バンキング部門におけるリスク・ウェイト資産も増加しました（外国為替影響を除き 4 億ドル増）。保険の持分法による評価額は、OCI 準備金のレートの上昇の影響に関連して、リスク・ウェイト資産を 12 億ユーロ減少させる方向に作用しました。「手法及び規制の影響並びに M&A」項目は、リスク・ウェイト資産に 24 億ユーロの増加影響がありましたが、これは主に対象を絞った内部モデルの見直し（TRIM：29 億ユーロ増）によるものでした。最後に、スイッチ・メカニズムの追加の 15%の解消は、プラス 51 億ユーロの影響を RWA に与えました。

流動性と資金調達

流動性は、クレディ・アグリコル・グループのレベルで測定されます。

当グループの流動性ポジションについてわかりやすく、適切で、監査可能な情報を提供するため、バンキング部門のキャッシュ・バランスシートの安定した余剰金を四半期毎に計算します。

バンキング部門のキャッシュ・バランスシートは、当グループの IFRS 財務諸表から作成されます。これは、当グループの IFRS 財務諸表とキャッシュ・バランスシートの各セクション（次の表に示される）の間のマッピング・テーブルの定義に基づいており、その定義は市場で一般に受け入れられています。これは、保険事業が独自の制約に従って管理されているため、バンキング部門の範囲に関係します。

キャッシュ・バランスシートの各セクションでの IFRS 財務諸表の分類に加えて、相殺計算が行われます。これは、流動性リスクの点で対称的な影響を及ぼす特定の資産と負債に関係します。繰延税金、公正価額の影響、一般減損、空売り取引、及び他の資産と負債については、2021 年 3 月末時点で総額 620 億ユーロの相殺が行われました。同様に、1,200 億ユーロのレポ／リバース・レポについては、これらの残高は互いに相殺される証券貸借業務を実施する証券デスクの活動を反映するため、これまでに除外されていました。キャッシュ・バランスシートを確立するために算出された、2021 年 3 月 31 日現在で 1,590 億ユーロに上る相殺は、デリバティブ、マージンコール、調整／清算／連絡勘定のほか、法人営業及び投資銀行部門が保有する非流動証券に関係し、「顧客関連取引資産」に含まれています。

キャッシュ・バランスシートを作成するために預金供託公庫に集約された預金は相殺されない点にご注意ください。集約された預金額（2021 年 3 月末時点で 670 億ユーロ）は、「顧客関連取引資産」の科目の資産と「顧客関連資金」の科目の負債に記載されます。

最終段階では、他の修正再表示項目は、経済的観点から別の科目に関係する場合は、会計基準が 1 つのセクションに割り当てている残高に再度割り当てられます。そのような形で、バンキング・ネットワークを通じて発行されたシニア債と欧州投資銀行、預金供託公庫、及び顧客ローンの裏付けのある同タイプのリファイナンス取引による資金調達については、会計基準が「中長期市場資金」と分類する場合は、「顧客関連資金」として再分類されます。

中央銀行からの流動性調達取引については、T-LTRO（長期資金供給オペ）に関連する残高は、「長期市場資金」に含まれることにご注意ください。実際に、T-LTRO3 のオペは、ECB の裁量による早期回収を認めていません。契約満期を考えると、これは、流動性リスク条件の点で担保付き債券と同一の長期保証資金供給に相当すると思われます。

中長期レポも「長期市場資金」に含まれます。

最後に、CIB の相手方当事者で、われわれと商業的関係を結んでいる銀行は、キャッシュ・バランスシートの作成では顧客とみなされます。

2021 年 3 月 31 日現在の当グループのバンキング部門のキャッシュ・バランスシートは 1 兆 5,490 億ユーロで、**安定資産に対する安定資金の超過額は 2,790 億ユーロ**でした（2020 年 12 月末と比べて 140 億ユーロ増、2020 年 3 月末と比べて 1,470 億ユーロ増）。

COVID-19 危機に関連して過去数四半期にわたってすでに実施されてきた取組みに関連して、当グループは 2021 年 3 月に 190 億ユーロ[69]の欧州中央銀行の T-LTRO3 中長期資金供給取引に再度参加し、安定資金の水準の引上げに役立てました。当グループの T-LTRO3 の残高総額は 2021 年 3 月 31 日現在で 1,520 億ユーロ[70]となりました。*なお、こうしたオペにおける流動性調達金利に適用される補助については、借入期間にわたって計上されており、2020 年 6 月から 2021 年 6 月までの期間に関する追加補助については、当グループはすでに貸出条件を満たしているため、1 年にわたって計上されています。*

また、当四半期においては、顧客の取引は純増となりました。回収された資金は 170 億ユーロ増加しましたが、顧客貸付金と顧客取引資産は 220 億ユーロ増加しました。

「安定資金ポジション」として知られるこの 2,790 億ユーロの超過額により、当グループは、長期資産と安定的な負債（顧客、有形資産と無形資産、長期資金、自己資本）によって生じる LCR 不足を賄うことができます。内部管理目的では、将来の返済戦略とは無関係に、中期計画の目標である 1,000 億ユーロ以上を確保するため、T-LTRO3 残高の増加による安定資金の一時的な余剰は除外しています。

長期の利用可能資金に対する安定資金の比率は、前四半期比 0.8 ポイント増の 124.3%でした。

また、流動性が超過していることから、2021 年 3 月 31 日現在、当グループは短期貸付のポジション（中央銀預け金が短期債務を上回っていること）を維持しています。

中長期市場資金は 2021 年 3 月 31 日現在で 3,380 億ユーロになり、2020 年 12 月末から 170 億ユーロ、2020 年 3 月末から 1,100 億ユーロそれぞれ増加しました。

これには、2,120 億ユーロの担保付きシニア債、800 億ユーロの優先シニア債、250 億ユーロの非優先シニア債、210 億ユーロのティア 2 債券が含まれます。

担保付きシニア債の増加は、当グループが参加した欧州中央銀行の T-LTRO 3 取引によるものです。

2021 年 3 月 31 日現在の当グループの流動性準備金は、ヘアーカット後の時価で 4,610 億ユーロとなり、2020 年 12 月末現在からは 230 億ユーロ増加し、2020 年 3 月 31 日現在からは 1,230 億ユーロ増加しました。流動性準備金は短期債務の 4 倍以上に達しました（中央銀行との置き換えを除く）。

---

[69] *FCA バンクを除く*

[70] *FCA バンクを除く*

高水準の中央銀行預け金は、著しい流動性超過を置き換えた結果でした。2021 年 3 月 31 日現在の預け金残高は 2,180 億ユーロで、2020 年 12 月末比 320 億ユーロ増、2020 年 3 月末比 840 億ユーロ増となりました。

クレディ・アグリコル・グループは、即時利用可能な準備金（ECB の資金供給に依拠した後）を維持する取組みを継続しています。ヘアーカット後の中央銀行適格資産は 1,010 億ユーロとなり、2020 年 12 月末から 10 億ユーロ減少しましたが、2020 年 3 月末からは 250 億ユーロ増加しました。

信用機関は、2018 年 1 月 1 日に 100%に設定されたこの LCR レシオの基準値を条件付けられます。

2021 年 3 月 31 日現在、12 ヶ月間の平均値として算出された LCR レシオの分子（HQLA 証券のポートフォリオ、現金及び中央銀行預け金を含み準備預金を除く）は、クレディ・アグリコル・グループについては 3,428 億ユーロ、クレディ・アグリコル S.A.については 3,110 億ユーロでした。

12 ヶ月間の平均値として算出された LCR レシオの分母（純キャッシュ・アウトフローを表す）は、クレディ・アグリコル・グループについては 2,173 億ユーロ、クレディ・アグリコル S.A.については 2,022 億ユーロでした。

クレディ・アグリコル・グループとクレディ・アグリコル S.A.の 12 ヶ月間の平均 LCR レシオは、2021 年 3 月末時点でそれぞれ 157.7%と 153.8%でした。これは、およそ 110%という中期計画目標を上回っています。

2021 年 3 月 31 日現在の期末 LCR レシオは、クレディ・アグリコル・グループが 185.9%、クレディ・アグリコル S.A.が 162.4%でした。

COVID-19 による衛生危機の状況下でのクレディ・アグリコル・グループ及びクレディ・アグリコル S.A.の LCR レシオの水準の上昇は、中央銀行から T-LTRO 3 の引出しを使用したことに沿ったものでした。

当グループは、投資家基盤と商品の点で非常に多様な市場アクセスを確保して、今後も中長期資金供給について慎重な方針に従います。

当グループの主要発行体は 2021 年 3 月 31 日末現在、中・長期債によって市場で 89 億ユーロ相当額[71]を調達し、このうちの 33%がクレディ・アグリコル S.A.によって発行されました。なお、

- クレディ・アグリコル・イタリアは、第 1 回の 12 年物「グリーン」カバードボンド 5 億ユーロを発行しました。
- クレディ・アグリコル・ネクストバンク（スイス）は第 2 回の 10 年物カバードボンド 2 億スイスフランの発行を完了しました（4 月決済）。

更に、国内機関と国際機関から 10 億ユーロ規模の借入も行われ、2021 年に当グループのリテール・バンキング・ネットワーク（地域銀行、LCL、CA イタリア）と他の外部リテール・ネットワークで調達されました。

4 月末、クレディ・アグリコルは 2021 年の 90 億ユーロの市場からの中長期資金調達プログラム（非優先シニア債又はティア 2 債券 70 億ユーロを含みます）**の 44%を完了しました。**

当行は 40 億ユーロ相当額[72]を調達し、これには 22 億ユーロ相当額の非優先シニア債、15 億ユーロ相当額のティア 2 債券、2 億ユーロ相当額の優先シニア債が含まれています。資金調達の形態と通貨（EUR, USD, AUD, CNY, CHF）は様々で、多様化されています。

また、クレディ・アグリコル S.A.は、6.5%利付 AT1 債券 10 億ユーロ（ISIN コード:XS 1055037177）の 2021 年 6 月 23 日の償還オプションの行使を発表しました。

[71] *買戻し及び部分返済控除前の総額*

[72] *買戻し及び部分返済控除前の総額*

付属資料 1 ー 特殊要因（クレディ･アグリコル･グループとクレディ･アグリコル S.A.）

クレディ･アグリコル･グループ ー 特殊要因（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

€m	Q1-21		Q1-20	
	Gross impact*	Impact on Net income	Gross impact*	Impact on Net income
DVA (LC)	8	6	(19)	(14)
Loan portfolio hedges (LC)	(7)	(5)	123	83
Home Purchase Savings Plans (LCL)	(12)	(9)	(11)	(8)
Home Purchase Savings Plans (CC)	(4)	(3)	(29)	(20)
Home Purchase Savings Plans (RB)	(18)	(13)	(75)	(51)
Total impact on revenues	**(33)**	**(23)**	**(12)**	**(9)**
Covid-19 donation (AG)	-	-	(38)	(38)
Covid-19 donation (IRB)	-	-	(8)	(4)
Covid-19 donation (CC)	-	-	(10)	(10)
Covid-19 donation (RB)	-	-	(10)	(10)
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	(4)	(2)	(4)	(2)
Total impact on operating expenses	**(4)**	**(2)**	**(70)**	**(64)**
Restatement SRF2016-2020 (RB)	55	55	-	-
Restatement SRF2016-2020 (CC)	130	130	-	-
Total impact on SRF	**185**	**185**	**-**	**-**
Ongoing sale project (WM)	(5)	(5)	-	-
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	**(5)**	**(5)**	**-**	**-**
Total impact of specific items	**143**	**154**	**(82)**	**(73)**
Asset gathering	**(5)**	**(5)**	**(38)**	**(38)**
French Retail banking	**24**	**33**	**(96)**	**(68)**
International Retail banking	**-**	**-**	**(8)**	**(4)**
Specialised financial services	**-**	**-**	**-**	**-**
Large customers	**(3)**	**(1)**	**100**	**67**
Corporate centre	**126**	**127**	**(39)**	**(30)**

** Impact before tax and before minority interests*

クレディ・アグリコル S.A. ー 特殊要因（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

€m	Q1-21 Gross impact*	Q1-21 Impact on Net income	Q1-20 Gross impact*	Q1-20 Impact on Net income
DVA (LC)	8	6	(19)	(14)
Loan portfolio hedges (LC)	(7)	(5)	123	81
Home Purchase Savings Plans (FRB)	(12)	(8)	(11)	(7)
Home Purchase Savings Plans (CC)	(4)	(3)	(29)	(20)
Total impact on revenues	**(15)**	**(10)**	**63**	**40**
Covid-19 donation (AG)	-	-	(38)	(38)
Covid-19 donation (IRB)	-	-	(8)	(4)
Covid-19 donation (CC)	-	-	(10)	(10)
S3 / Kas Bank integration costs (LC)	(4)	(2)	(4)	(2)
Total impact on operating expenses	**(4)**	**(2)**	**(60)**	**(54)**
Restatement SRF2016-2020	130	130	-	-
Total impact on SRF	**130**	**130**	**-**	**-**
Ongoing sale project (WM)	(5)	(5)	-	-
Total impact on Net income from discounted or held-for-sale operations	**(5)**	**(5)**	**-**	**-**
Total impact of specific items	*106*	*113*	*3*	*(14)*
Asset gathering	*(5)*	*(5)*	*(38)*	*(38)*
French Retail banking	*(12)*	*(8)*	*(11)*	*(7)*
International Retail banking	*-*	*-*	*(8)*	*(4)*
Specialised financial services	*-*	*-*	*-*	*-*
Large customers	*(3)*	*(1)*	*100*	*66*
Corporate centre	*126*	*127*	*(39)*	*(30)*

** Impact before tax and before minority interests*

付属資料 2 ー クレディ・アグリコル・グループ：部門別実績

クレディ・アグリコル・グループ ー 部門別寄与（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

	Q1-21 (stated)							
€m	RB	LCL	IRB	AG	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,536**	**893**	**711**	**1,582**	**644**	**1,664**	**20**	**9,049**
Operating expenses excl. SRF	(2,267)	(574)	(428)	(783)	(334)	(913)	(204)	(5,505)
SRF	(87)	(59)	(20)	(7)	(24)	(328)	58	(467)
Gross operating income	**1,183**	**260**	**262**	**792**	**285**	**422**	**(127)**	**3,078**
Cost of risk	(153)	(83)	(99)	(7)	(127)	(67)	1	(537)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	0	-	-	18	74	2	-	94
Net income on other assets	10	0	2	1	(0)	0	(0)	13
Income before tax	**1,040**	**178**	**165**	**804**	**232**	**357**	**(126)**	**2,648**
Tax	(342)	(65)	(51)	(179)	(50)	(66)	32	(720)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	(1)	(5)	-	-	-	(6)
Net income	**697**	**113**	**113**	**620**	**182**	**291**	**(94)**	**1,921**
Non controlling interests	(0)	(0)	(23)	(109)	(24)	(10)	(2)	(168)
Net income Group Share	**697**	**113**	**91**	**510**	**158**	**281**	**(96)**	**1,754**

	Q1-20 (stated)							
€m	RB	LCL	AG	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**3,160**	**877**	**1,334**	**696**	**647**	**1,589**	**64**	**8,366**
Operating expenses excl. SRF	(2,263)	(585)	(806)	(450)	(352)	(884)	(208)	(5,548)
SRF	(94)	(35)	(7)	(16)	(20)	(200)	(83)	(454)
Gross operating income	**803**	**258**	**521**	**230**	**275**	**505**	**(228)**	**2,363**
Cost of risk	(307)	(101)	(19)	(117)	(190)	(160)	(37)	(930)
Cost of legal risk	-	-	-	-	-	-	-	-
Equity-accounted entities	3	-	14	-	72	2	-	91
Net income on other assets	0	0	4	1	0	(0)	0	5
Income before tax	**499**	**157**	**519**	**114**	**157**	**347**	**(264)**	**1,530**
Tax	(238)	(56)	(126)	(38)	(29)	(56)	63	(481)
Net income from discont'd or held-for-sale ope.	-	-	-	(0)	-	-	-	(0)
Net income	**261**	**101**	**393**	**76**	**128**	**290**	**(202)**	**1,048**
Non controlling interests	(1)	(0)	(62)	(17)	(19)	(10)	(30)	(140)
Net income Group Share	**260**	**100**	**331**	**59**	**109**	**280**	**(232)**	**908**

付属資料 3 ー クレディ･アグリコル S.A.：部門別実績

クレディ･アグリコル S.A.：部門別寄与（2021 年度第 1 四半期と 2020 年度第 1 四半期）

	Q1-21 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**1,584**	**893**	**693**	**644**	**1,665**	**14**	**5,493**
Operating expenses excl. SRF	(783)	(574)	(415)	(334)	(913)	(176)	(3,197)
SRF	(7)	(59)	(20)	(24)	(328)	58	(380)
Gross operating income	**793**	**260**	**258**	**285**	**423**	**(104)**	**1,916**
Cost of risk	(7)	(83)	(100)	(127)	(67)	1	(384)
Equity-accounted entities	18	-	-	74	2	(7)	87
Net income on other assets	1	0	2	(0)	0	(0)	3
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**805**	**178**	**160**	**232**	**358**	**(110)**	**1,622**
Tax	(179)	(65)	(50)	(50)	(66)	31	(378)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(5)	-	(1)	-	-	-	(6)
Net income	**621**	**113**	**109**	**182**	**292**	**(79)**	**1,238**
Non controlling interests	(114)	(5)	(30)	(24)	(16)	(4)	(193)
Net income Group Share	**507**	**108**	**79**	**158**	**276**	**(83)**	**1,045**

	Q1-20 (stated)						
€m	AG	FRB (LCL)	IRB	SFS	LC	CC	Total
Revenues	**1,320**	**877**	**670**	**647**	**1,587**	**99**	**5,200**
Operating expenses excl. SRF	(806)	(585)	(430)	(352)	(884)	(198)	(3,254)
SRF	(7)	(35)	(16)	(20)	(200)	(83)	(360)
Gross operating income	**507**	**258**	**225**	**275**	**503**	**(182)**	**1,586**
Cost of risk	(19)	(101)	(115)	(190)	(160)	(36)	(621)
Equity-accounted entities	14	-	-	72	2	3	90
Net income on other assets	4	0	1	0	(0)	0	5
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-	-
Income before tax	**505**	**157**	**111**	**157**	**345**	**(216)**	**1,060**
Tax	(122)	(56)	(37)	(29)	(56)	39	(261)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	-	-	(0)	-	-	-	(0)
Net income	**383**	**101**	**74**	**128**	**289**	**(176)**	**799**
Non controlling interests	(65)	(5)	(22)	(19)	(16)	(34)	(161)
Net income Group Share	**318**	**96**	**52**	**109**	**273**	**(210)**	**638**

付属資料 4 ー 1 株当たり利益、1 株当たり純資産の計算に使用される方法

クレディ・アグリコル S.A. ー 1 株当たり利益、1 株当たり純資産の計算に使用される方法

(€m)		Q1-21	Q1-20	Δ Q1/Q1
Net income Group share - stated		1,045	638	+63.9%
- Interests on AT1, including issuance costs, before tax		(114)	(157)	(27.4%)
NIGS attributable to ordinary shares - stated	[A]	931	481	+93.8%
Average number shares in issue, excluding treasury shares (m)	[B]	2,915.7	2,883.1	+1.1%
Net earnings per share - stated	**[A]/[B]**	**0.32 €**	**0.17 €**	**+91.6%**
Underlying net income Group share (NIGS)		932	652	+43.1%
Underlying NIGS attributable to ordinary shares	[C]	818	495	+65.5%
Net earnings per share - underlying	**[C]/[B]**	**0.28 €**	**0.17 €**	**+63.6%**

(€m)		31/03/2021	31/12/2020
Shareholder's equity Group share		65,709	65,217
- AT1 issuances		(5,882)	(5,888)
- Unrealised gains and losses on OCI - Group share		(2,482)	(3,083)
- Payout assumption on annual results*		(914)	(914)
Net book value (NBV), not revaluated, attributable to ordin. sh.	**[D]**	**56,431**	**55,333**
- Goodwill & intangibles** - Group share		(17,476)	(17,488)
Tangible NBV (TNBV), not revaluated attrib. to ordinary sh.	**[E]**	**38,955**	**37,844**
Total shares in issue, excluding treasury shares (period end, m)	[F]	2,916.0	2,915.6
NBV per share , after deduction of dividend to pay (€)	[D]/[F]	19.4 €	19.0 €
+ Dividend to pay (€)	[H]	0.31 €	0.31 €[73]
NBV per share , before deduction of dividend to pay (€)		19.7 €	19.3 €
TNBV per share, after deduction of dividend to pay (€)	[G]=[E]/[F]	13.4 €	13.0 €
TNBV per sh., before deduct. of divid. to pay (€)	[G]+[H]	13.7 €	13.3 €

** dividend proposed to the Board meeting to be paid*
*** including goodwill in the equity-accounted entities*

[73] *0.31 ユーロは現金配当に相当します。*

代替的業績指標

NBV（再評価されない純資産額）

再評価されない純資産額は、AT1 債券の発行額、OCI グループ帰属分の未実現損益、及び年間業績に関する配当金想定額を控除した株主資本グループ帰属分に対応しています。

1 株当たり純資産額/1 株当たり純有形資産価額

株式の価値を計算する方法の 1 つ。これは、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した純資産額です。

1 株当たり純有形資産価額は、自己株式を除く期末の発行済株式数で除した、無形資産及びのれんを控除後の純資産額です。

EPS（1 株当たり利益）

これは、自己株式を除く平均発行済株式数で除した、AT1 債券利息控除後の純利益グループ帰属分です。EPS は、（各株主に支払われる利益部分（配当）ではなく）各株式に帰せられる利益部分を表します。これは、株式数が増加する場合、純利益グループ帰属分に変動がないと想定すると減少します。

コスト比率

コスト比率は、営業費用を収益で除すことで算定され、営業費用を賄うのに必要な収益の割合を表します。

リスク関連費用／残高

（ローリング 4 四半期の）信用リスク関連費用を、（期首における過去 4 四半期の平均）残高で除して算定されます。また、当該四半期の信用リスク関連費用の年換算額を当該四半期の期首残高で除して算出することもできます。同様に、当該期間のリスク関連費用を年換算し、期首の平均残高で除すこともできます。2019 年度第 1 四半期より、考慮に入れる残高は、引当金控除前の顧客残高です。この指標の算出方法は、この指標が使用される度に明示されます。

要注意債権

デフォルトになりかけている債権。融資先は、次のいずれかの条件が満たされた場合にデフォルト状態とみなされます。

- 支払が概して 90 日超遅延している（支払遅延が融資先の財務状況とは無関係の理由による旨の事実を具体的な状況が指し示している場合を除く）。
- 担保権の執行などの特定の措置を活用する以外に、融資先がその信用債務を決済する可能性が低いと考えられる。

減損債権

不履行のリスクがあるために、引当金が設定された貸付金。

減損（又は不良）債権引当率

この比率は、引当金残高を減損した顧客残高総額で除して算出されます。

減損（又は不良）債権比率

この比率は、個別評価で評価減された引当金控除前の顧客残高総額を、顧客残高総額合計で除算したものです。

純利益グループ帰属分（NIGS）

当該事業年度の税引後純利益（損失）。全部連結された子会社における純利益から非支配持分に帰属する部分を控除した額に相当します。

基礎 NIGS（純利益グループ帰属分）

基礎純利益グループ帰属分は、特殊要因（すなわち、非経常的項目や例外的項目）控除後の純利益グループ帰属分を表します。

普通株式に帰属する NIGS

普通株式に帰属する純利益グループ帰属分は、AT1 利息控除後で、税引前発行費用を含む、純利益グループ帰属分を表します。

RoTE（有形株主資本利益率）

RoTE（有形株主資本利益率）は、NIGS を無形資産及びのれん控除後のグループの NBV で除すことによって、有形資本に対する収益率を測定します。

Disclaimer

The financial information on Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Group for first quarter 2021 comprises this presentation and the attached appendices and press release which are available on the website: https://www.credit-agricole.com/en/finance/finance/financial-publications.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of EU Delegated Act 2019/980 of 14 March 2019 (chapter 1, article 1, d).

This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset impairment.

Readers must take all these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the three-month period ending 31 March 2021 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date, and with prudential regulations currently in force. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

Note: The scopes of consolidation of the Crédit Agricole S.A. and Crédit Agricole Groups have not changed materially since the Crédit Agricole S.A. 2020 Universal Registration Document and its A.01 update (including all regulatory information about the Crédit Agricole Group) were filed with the AMF (the French Financial Markets Authority).

The sum of values contained in the tables and analyses may differ slightly from the total reported due to rounding.

On 30 June 2020, once all necessary regulatory approvals were secured, Amundi acquired the entire share capital of Sabadell Asset Management.

決算スケジュール

2021 年 5 月 12 日	非公開年次株主総会
2021 年 8 月 5 日	2021 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2021 年 11 月 10 日	2021 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の決算発表

Contacts

CREDIT AGRICOLE PRESS CONTACTS

Charlotte de Chavagnac	+33 (0)1 57 72 11 17	charlotte.dechavagnac@credit-agricole-sa.fr
Olivier Tassain	+ 33 1 43 23 25 41	olivier.tassain@credit-agricole-sa.fr
Bertrand Schaefer	+ 33 1 49 53 43 76	bertrand.schaefer@ca-fnca.fr

CREDIT AGRICOLE S.A. INVESTOR RELATIONS CONTACTS

Institutional shareholders	+ 33 1 43 23 04 31	investor.relations@credit-agricole-sa.fr
Individual shareholders	+ 33 800 000 777 (freephone number – France only)	relation@actionnaires.credit-agricole.com
Clotilde L'Angevin	+ 33 1 43 23 32 45	clotilde.langevin@credit-agricole-sa.fr
Equity investors:		
Toufik Belkhatir	+ 33 1 57 72 12 01	toufik.belkhatir@credit-agricole-sa.fr
Joséphine Brouard	+ 33 1 43 23 48 33	Joséphine.brouard@credit-agricole-sa.fr
Oriane Cante	+ 33 1 43 23 03 07	oriane.cante@credit-agricole-sa.fr
Emilie Gasnier	+ 33 1 43 23 15 67	emilie.gasnier@credit-agricole-sa.fr
Nicolas Ianna	+ 33 1 43 23 55 51	Nicolas.ianna@credit-agricole-sa.fr
Ibrahima Konaté	+ 33 1 43 23 51 35	ibrahima.konate@credit-agricole-sa.fr
Annabelle Wiriath	+ 33 1 43 23 55 52	annabelle.wiriath@credit-agricole-sa.fr
Credit investors and rating agencies:		
Caroline Crépin	+ 33 1 43 23 83 65	caroline.crepin@credit-agricole-sa.fr
Marie-Laure Malo	+ 33 1 43 23 10 21	marielaure.malo@credit-agricole-sa.fr
Rhita Alami Hassani	+ 33 1 43 23 15 27	rhita.alamihassani@credit-agricole-sa.fr

See all our press releases at: www.credit-agricole.com – www.creditagricole.info

Crédit_Agricole Crédit Agricole Group créditagricole_sa